

治水利係資料
第九輯
燒烟及切替烟
農林省山林局編
關スル調査

14.21
763

14. 21-763
1200501163507



始



14.2
763

治水關係資料 第九輯

燒畑及切替畑ニ關スル調査

農林省山林局

本邦ニ於ケル焼畑及切替畑總面積ハ實ニ七萬七千餘町歩ノ多キ
 ニ達シ、概ネ山岳地方ノ急峻地ニ在ルヲ以テ、或ハ山崩レノ因ヲ爲
 シ或ハ水源ヲ涸渴セシムル等國土保安上ニ及ボス影響頗ル多ク
 ナルノミナラズ、經濟的ニモ決シテ適切ナル土地利用法デ無
 ノガ多イ。然レドモ山村ノ現状ハ遽ニ之ヲ禁止スル事能ハザル
 ノ實情ニアルガ故ニ、差當リ之ガ改善ヲ圖リ以テ山村ノ經濟更生
 ニ資スルト共ニ、森林治水ノ完璧ヲ期セネバナラヌ、依ツテ茲ニ之
 ガ調査ヲ行ヒ將來ノ事業ニ資セントスルモノデアアル。



昭和十一年三月

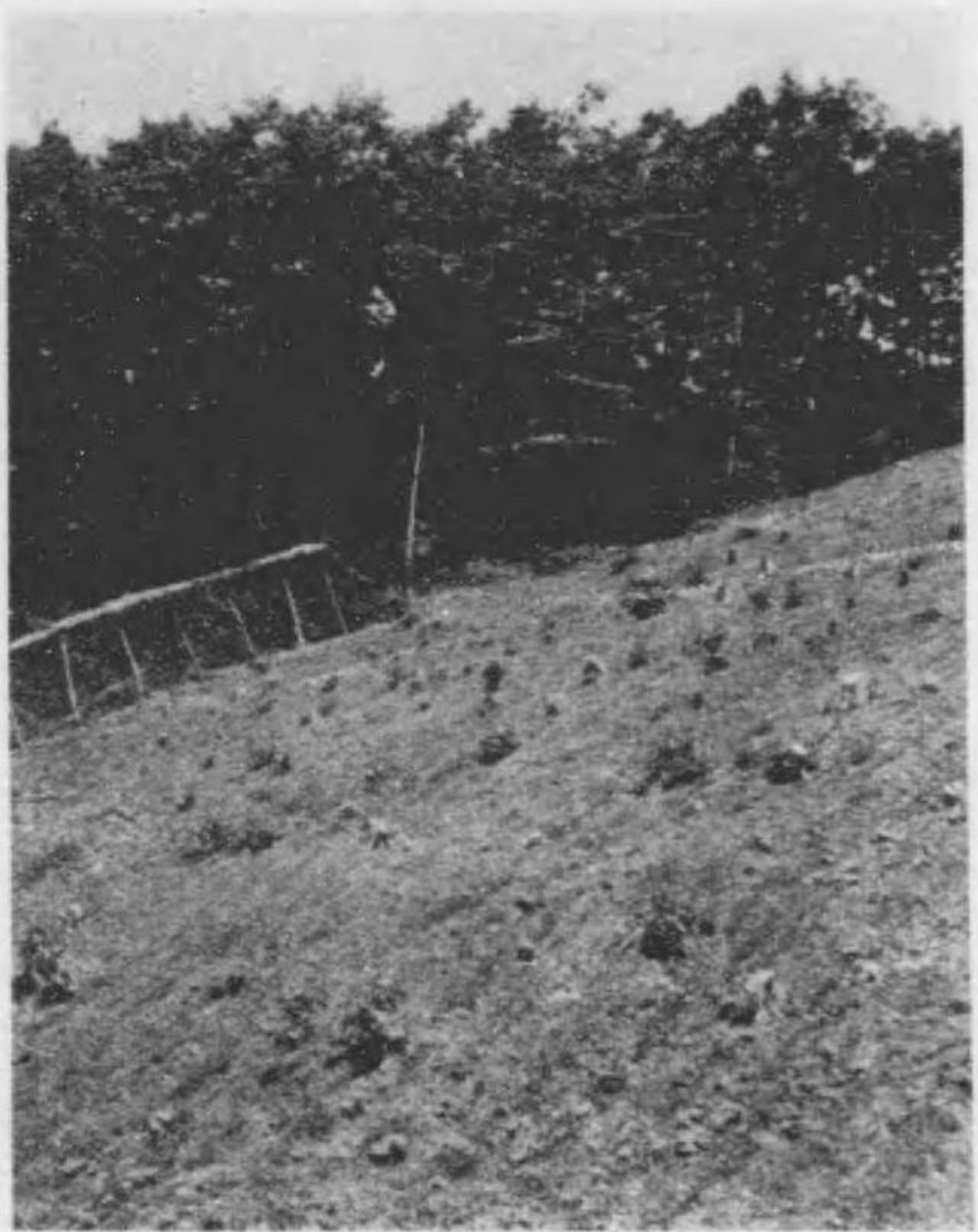
農 林 省 山 林 局

14.2/763

目次

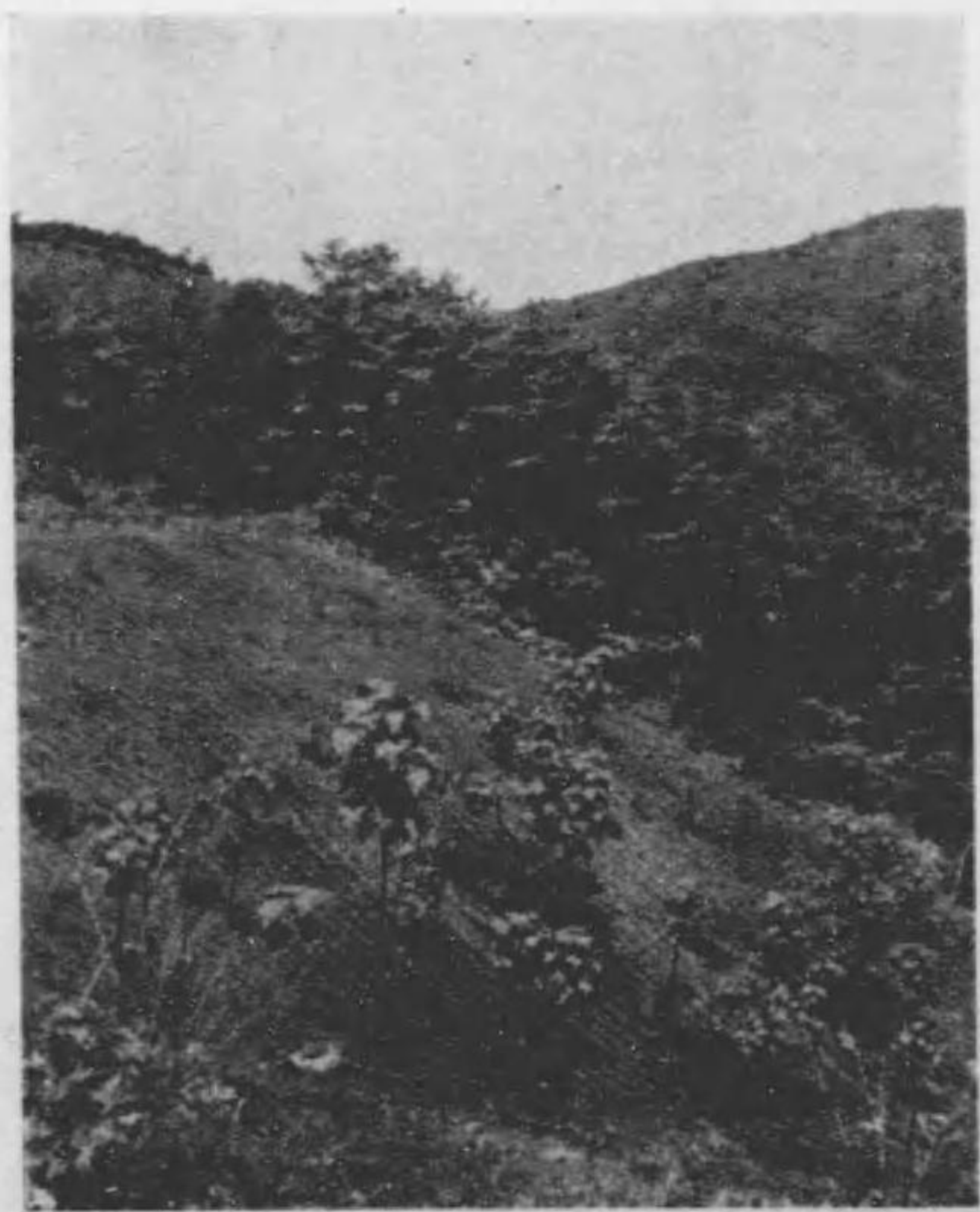
- 第一 總 說 一
- 第二 燒畑及切替畑ノ現況 六
 - 一 燒畑及切替畑面積並其戸數 六
 - 二 河川流域別ニヨル燒畑及切替畑面積 一九
 - 三 燒畑及切替畑ノ方法 三六
 - 第三 燒畑及切替畑ノ治水上ニ及ボス影響 六九
 - 第四 燒畑及切替畑ノ改廢對策 八四





岩手縣稗貫郡内川目村宇鳥谷
 焼畑第一年ニシテ粟作付セルモノ、左方ノ森林ハ山は
 んのき林ニシテ之ノ伐採跡他モ焼畑トナスモノデ、堆
 積セル薪材ハ山はんのきデアアル

(昭和十年九月撮影)



岩手縣稗貫郡内川目村宇鳥谷
 焼畑第二年目デ其間ニ桐ヲ植栽セル状況

(昭和十年九月撮影)

目次

第一編 焼畑の歴史と現状

第二編 焼畑の土地利用

第三編 焼畑の生産と農村経済

第四編 焼畑の環境と自然保護

第五編 焼畑の改良と農村振興

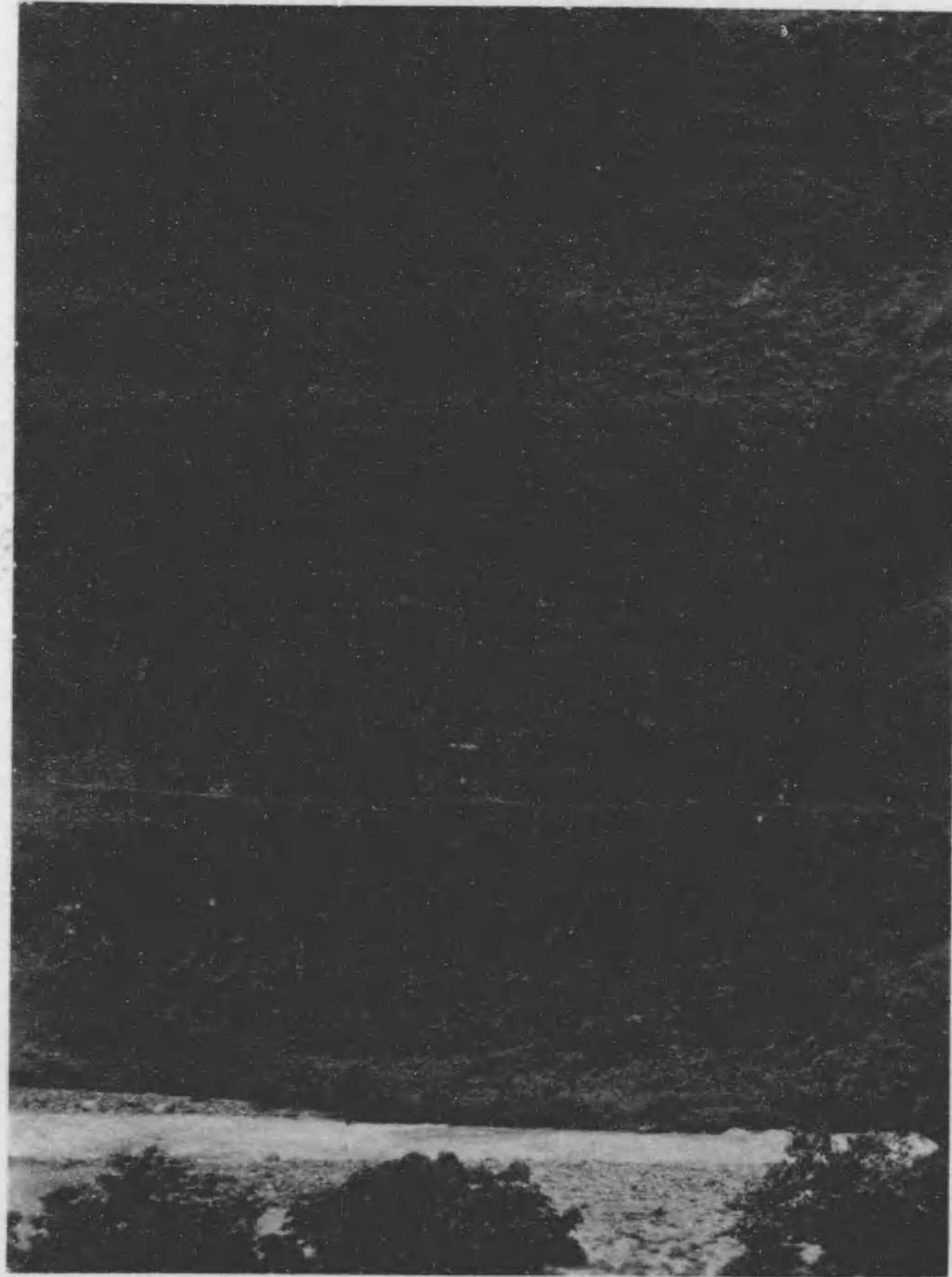
第六編 焼畑の将来展望

第七編 焼畑の調査と研究

第八編 焼畑の普及と教育

第九編 焼畑の政策と法規

第十編 焼畑の結論

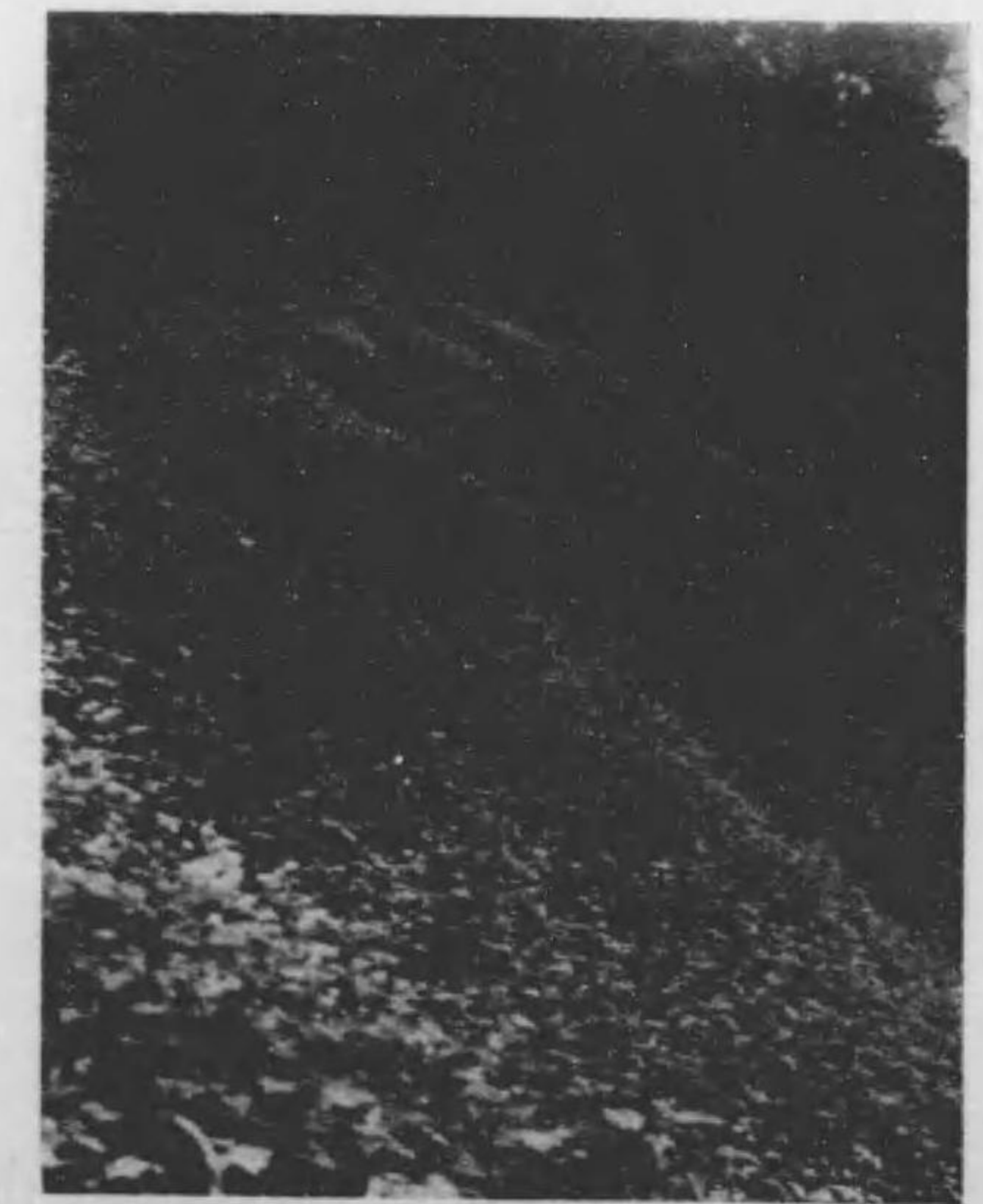


福井縣大野郡五ヶ村上打波
 焼畑トシテ作付廢止後十年目デ、一帯ニ茅生地トナリ荒廢セル狀況
 (昭和十年九月撮影)



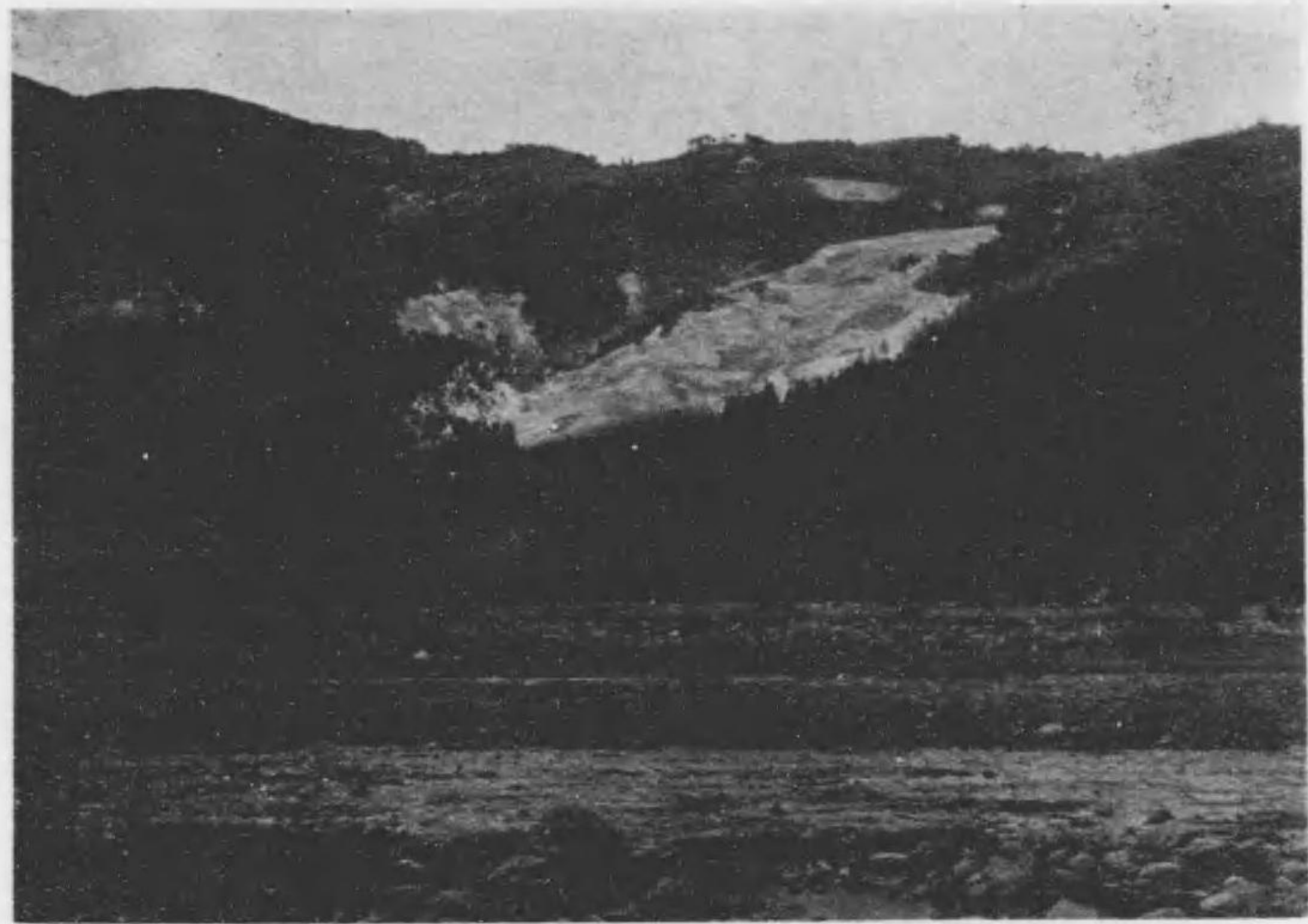
群馬縣多野郡上野村大字新羽
 松三十年生ヲ伐採シテ焼畑トナシ、蕎麥ヲ作付セルモ

(昭和十年九月撮影)



群馬縣多野郡上野村大字栗澤
 雜木林二十年ノモノヲ伐リ、焼畑トシテ蕎麥ヲ作付セ
 ルモノ

(昭和十年九月撮影)



静岡縣安倍郡井川村大字上坂本字出山
 燒畑ラ行ヒタル結果之ガ原因トナリ林地崩壞シテ治水上被害ヲ及ボセル狀況
 (昭和十年十月撮影)



岐阜縣大野郡丹生川村
 燒畑ニ於ケル桐(三年生)トヤマハシノキトノ混植、燒畑三年目デ蕎麥ヲ作ル

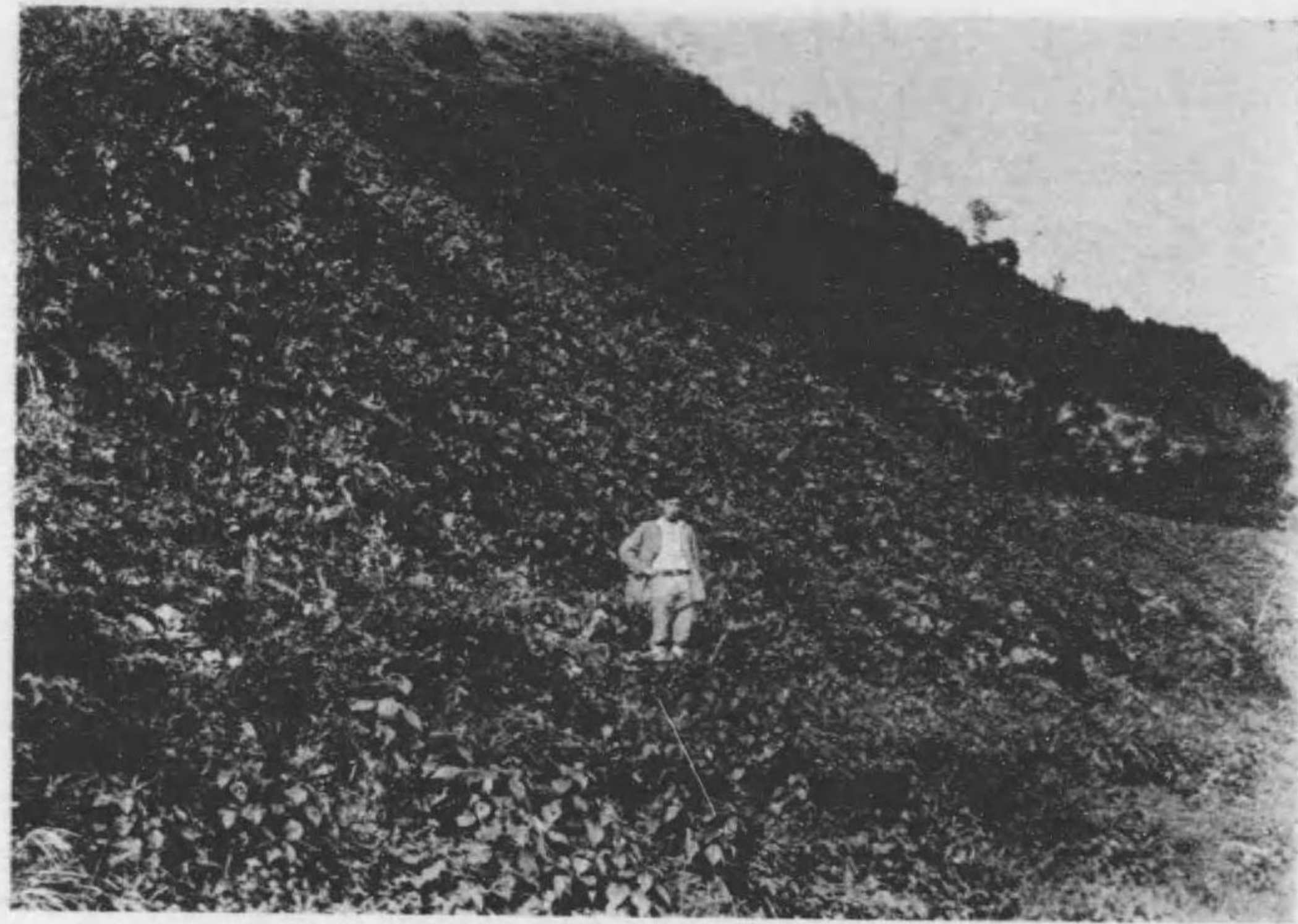


石川縣能美郡白峰村字白峰
 最前方、粟第二年目 次、稗第一年目
 次、來春燒拂フモノ (昭和十年九月撮影)

→

同上個所附近
 燒畑耕作時ニ居住スル出作小屋、其前後ハ凡テ燒畑デ
 アル





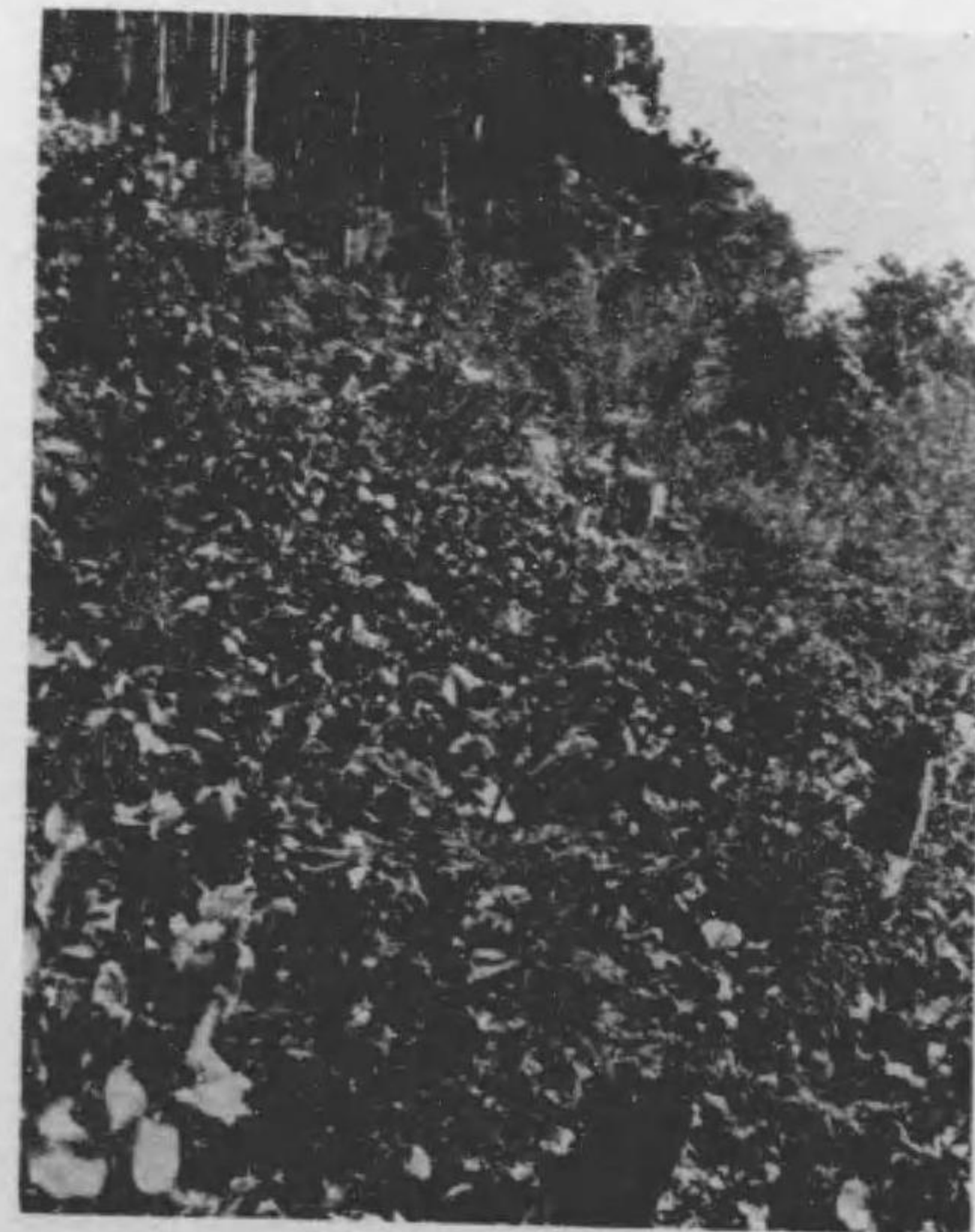
岡山縣眞庭郡久世町大字久世字淡月
急斜地ニ燒畑ヲ行ヒ大根栽培ノ狀況面積一町五反歩
(昭和十年九月撮影)



岡山縣眞庭郡勝山町大字見尾字家ノ上
三椗栽培セル燒畑ニシテ昭和九年秋ノ水害ニ崩壊セルモノデアル、面積
約一町歩 (昭和十年九月撮影)



鳥取縣八頭郡山郷村大字尾見
燒畑第一年、大根作付ノ狀況
右手伐探中ノモノハ明年燒畑ノ後、作付スル豫定地
(昭和十年九月撮影)



鳥取縣八頭郡山郷村大字中原
燒畑第二年目杉新植地内ニ小豆ヲ間作セル狀況
(昭和十年九月撮影)



愛媛縣上浮穴郡仕七川村大字七島
三椏栽培地ニ杉ヲ植付ケタルモノ、其間ニ點々小豆モ播種シテアル
(昭和十年十月撮影)



高知縣高岡郡別府村大字森字川渡
點々耕地ト森林以外ハ全部伐畑(草生状態ヲナシ居ル所)デ、三椏、大豆
各種ノ作物ヲ作付セルモノデアアル、此附近ハ殆ンド伐畑バカリト言フ状
況デアアル



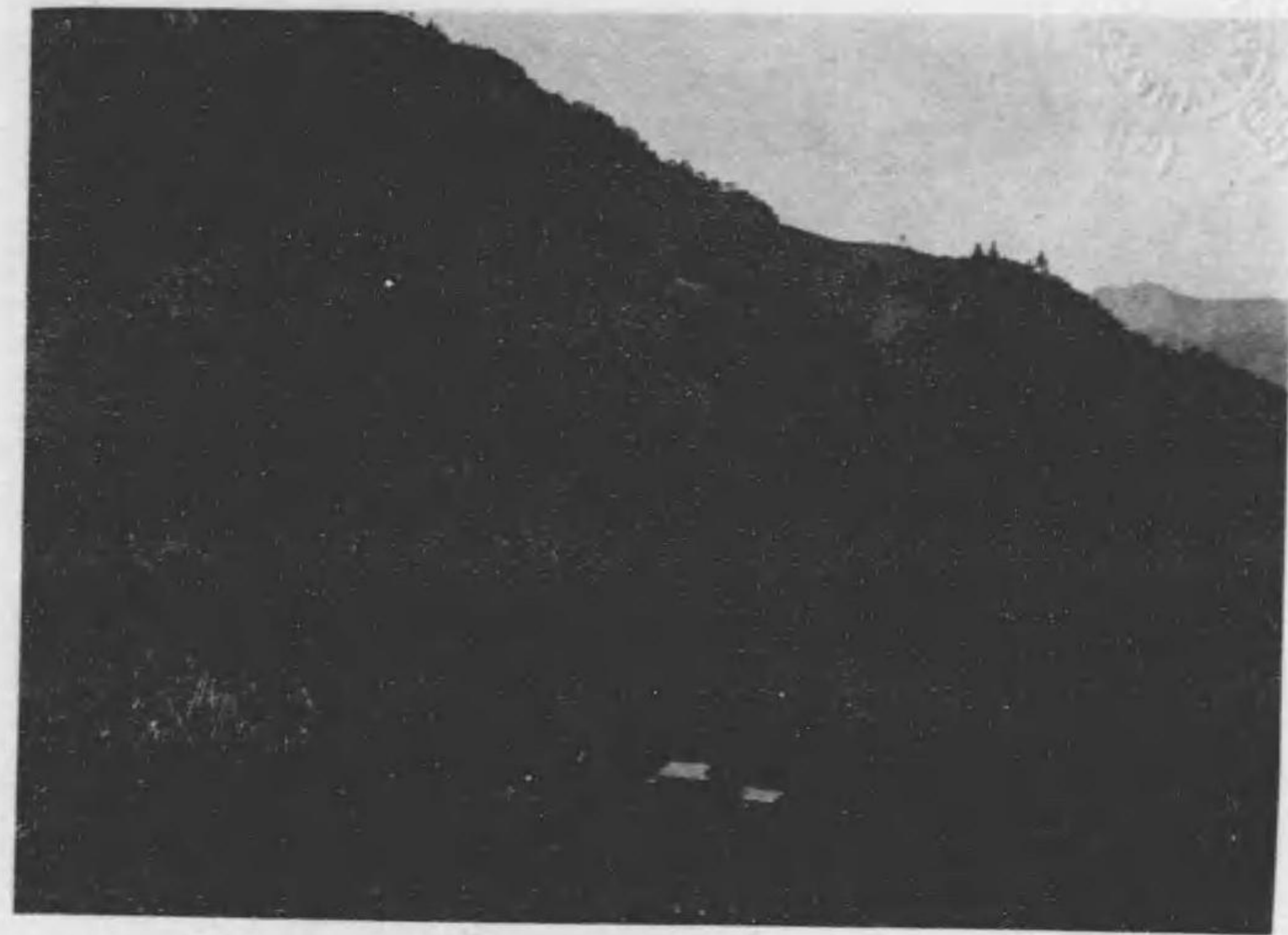
山口縣玖珂郡廣瀬村
植栽後三年ヲ経過セル杉林ニ葎藜芋ヲ間作セル状況、寫眞前面ニ點生セ
ルハ里芋、上面白ク見ニルハ錦川デアアル (昭和十年九月撮影)



愛媛縣上浮穴郡弘形村大字大川字梨ノ下
焼畑ノ後一部ハ玉蜀黍ヲ作リテ杉ヲ植ユル豫定地
中央三椏栽培地ハ其儘切替後再ビ三椏ヲ作ル所 (昭和十年十月撮影)



大分縣日田郡前津江村地方
焼畑第三年目、杉植付地＝陸稻ヲ間作セル狀況
(昭和十年九月撮影)



高知縣香美郡樟山村ノ一部
人家ノ右上部森林以外原野狀ヲナセル所ハ何レモ燒畑デ至ル所ニ甚ダ多
イ



大分縣日田郡前津江村地方
杉伐探跡地＝燒畑ヲ行ヒ、蕎麥ヲ作付セル狀況
(昭和十年九月撮影)

燒畑及切替畑ニ關スル調査

第一總說

(一) 燒畑及切替畑ノ意義

燒畑及切替畑ニ就テ森林法第三條中燒畑、切替畑其ノ他ノ土地云々ト記載シテハ居ルガ、嚴格ナル區別ハ甚ダ不明瞭デア
ル。

野守氏ノ森林法要義ニハ、
燒畑トハ森林ノ毛上ヲ燒キ拂ヒ其跡地ニ畑作ヲ行フ事三、四年漸ク地力減退シテ收穫ニ堪ヘザルニ至リ、之ヲ拋棄シテ再ビ森
林ト爲スヲ謂フ。
切替畑トハ森林ノ毛上ヲ伐リ拂ヒ其跡地ニ畑作ヲ行フ事三、四年漸ク地力衰退スルニ從ヒ遞次隣地ニ轉々シ同一行爲ヲ循環施
行スルヲ謂フ。

トアリ、又林業辭典ニヨレバ、
燒畑(又雜畑)

雜木等ヲ伐採シ之ヲ燃燒シテ肥料トナシ、其土地ニ數年間粗放ナル農作ヲナシタル後再ビ雜木ノ自生ニ放任スルモノ。
切替畑

林木ヲ伐採利用シ其跡地ニ數年間粗放ナル農作ヲナシ、然ル後再ビ之ヲ森林トシテ利用スル方法ヲ採ル也。

トアツテ燒畑ハ森林ノ毛上ヲ燃キ拂ヒ之ヲ肥料トシテ農作シ、又切替畑ハ林木ヲ伐採利用シ再ビ之ヲ森林トスル等ノ區別ヲナシテ居ルガ、現在各地方ニ於テ實査セル所ニヨツテ見レバ、燒畑ト稱スルモ森林ノ毛上ヲ利用スルモノ多ク、又切替畑ト稱フルモ火入ヲ行ヒ、毛上ヲ燃燒シ之ヲ肥料トシテ農作ヲナス所モ多ク、事實確然タル區別ナク全ク兩者ヲ混同シテ居ル。依ツテ本調査ヲ爲スニ當ツテハ之ノ兩者ヲ區別セズ、一括シテ行ツタノデアアル。

而シ燒畑又ハ切替畑ト稱スルモ農作後之ヲ放置シテ自然ノ成林ニ委セ、一定年數ノ後再ビ之ノ森林ヲ伐採シテ農作ヲ行ヒ、農作物ノ收穫ヲ主トスルモノヲ甲トシ、農作中又ハ農作後人工植栽ヲ行ヒ林木ノ利用ヲ主トスルモノヲ乙トシテ調査ヲ行ツタ。

(二) 沿革 大要

往昔本邦各地ノ山岳地方ニ於テハ已ニ有史以前ヨリ鬱蒼タル森林ヲ伐採シテ之ヲ燒キ拂ヒ、更ニ其ノ根株ヲ掘リ起シ燒キ殘サレタル太キ幹枝ト共ニ燃燒シテ灰トナシ、其ノ跡地ニ農作物ノ種子ヲ播キ至ツテ粗放ナル農作ヲナスコトニ、三年ニシテ最早作物ノ收穫ナキニ至ツテ自然ニ放置シ再ビ森林トナス法ガ行ハレテ居ツタ、即チ昔時木材ノ需要少ナカリシ爲利用スルコトナク直ニ伐リ倒シ燒却シタモノデアツタ。現在本邦各地ニ於テ交通甚ダ不便ニシテ森林ノ價值無キ山間僻陬ノ奥地ニ於テハ殆ンド森林ヲ利用スルコトナク、天然林ヲ伐採シテ燒キ拂ヒ、此處ニ農作物ヲ作付スル地方多キモ、交通稍便利ナル地方ニ至ルニ從ヒ、伐リ倒セル雜木林モ幾分薪炭ニ利用シテ居ル、更ニ進歩セル地方ニ於テハ農作後地力著シク減退スルヲ以テ農作廢止ノ翌春やまはんのきノ如キ樹種ヲ植栽シテ地力ノ恢復ヲ圖ル所モアルガ、之等ハ其利用ヲ主目的トスルモノデハ無イ、而シ再

ビ燒畑ヲ行フ場合幹材ハ専ラ薪材トシテ利用シテ居ル。

埼玉縣秩父郡浦山村及大瀧村地方ハ往古交通最モ不便ナリシ時代ニ燒畑甚ダ多ク農作物ハ殆ンド之ニヨツテ栽培シタノデアツタ、而シ世ノ進歩ニツレ次第ニ減少シ今ヤ僅カニ點在スル狀況デアアル。

今往古燒畑ニヨリ作物ノ收穫ヲナスニ如何ニ苦心セシカ、新編武藏風土記稿中浦山村ノ狀況ヲ記シテ參考ニ供シヤウ。

『耕ス所ハ皆火耕ノ畑ナリコレヲ燒畑ト云フ(或ハ指ト云フ)、サテ其燒畑ナルモノハ山ノ中腹又ハ峰ニアリ粟、稗、大豆、小豆、蕎麥等ヲ作レリ。』

其法二十年モ茂レル山ノ草木ヲ春夏ノ間ニ伐リ倒シ能ク枯レタル所ニ火ヲ掛ケテ悉ク烈カシテ灰トナシ、其ノ灰ヲ糞トシツレニ下種ス、實リハ遙ニ定免ノ畑ヨリモヨシト云フ。四、五年ヲ以テ止ミ又外ノ場所ヲ見立テテ形ノ如クシテ稼穡スト云ヘリ。稼穡ノ艱難ナルサマハ春季ヨリ初冬ノ頃マデハソレノ場所ヘ盧ヲ結ビテ移居シ、禾熟ノ時ニハ晝ハ猿ヲ防ギ夜ハ猪鹿ヲ逐ヒ明登マデ寢ラレズ、聲ヲアケ又ハ板木ヲ鳴ラシテイト謹シク夫妻子母山ヲ隔テ谷ヲ越エ皆所ヲ異ニセリ』

ト云ツテ居ルガ如ク、往昔燒畑ノ困難ハ一通リデ無カッタラシイ、而シテ現在斯クノ如キ事ハ無イニシテモ、深山ノ僻地ニ於テハ農作ノ收穫季ニ山小屋ヲ掛ケテ起臥シツ、作業スル所モアル。

進歩セル燒畑トシテハ所謂前作林業トシテ、雜木林ヲ伐採燒却セル後一、二年間農作ヲ行ヒ、或ハ農作ト同時ニすぎ、ひのき又ハ桐ノ如キ樹種ヲ造林スル様ニナツタモノモ尠クナイ、斯クテ各伐期毎ニ一、二年農作物ノ收穫ヲナス所モアルガ、燒畑即地拵デアツテ農作物ノ收穫ハ副産物デアアル。

以上ノ如ク今日普通ニ稱ヘラル、燒畑及切替畑ニハ二様ノモノガアル。

古クヨリ今日マデ各地方ニ於テ稱ヘラル、焼畑及切替畑ノ名稱ニツキテハ次ノ如キモノデアアル。

焼畑。北陸地方ニテハ**雜畑**ト云ヒ、山梨地方ニテハ**刈畑**ト云フ。東北地方ニテハ**専ラカ**の(火野)ト稱シ、かのやき、かのつくり等ト云ツテ居ル。關東、四國地方デハ**やぶ**(藪)ト稱スル所モアル。埼玉地方ニテ古クハ**さす**(差)又ハ指ノ字ヲ用フト稱シタ。

切替畑。古ク高知徳島藩等デハ**伐畑**山ト云フノガアツタ、之ハ住民ノ焼畑開墾地デアアル、而シテ之ニ二種アリ一ヲ名負ト云ヒ、他ヲ**檢地**ト云ツタ、名負トハ從來ヨリ私有トシテ認メラレタルモノ、即チ純然タル私有デ(此場合ノ上納ハ租税ニ等シキモノ)、檢地トハ相當上納スル民地即チ藩有デ(之ノ場合ノ上納ハ土地使用料ニ等シキモノ)ヲ言ツタノデアアル、斯クノ如キニヨリ四國地方デハ**伐畑**、**切畑**等ト稱シ、熊本藩デハ**剪替畑**ト稱シテ居タ。今東北地方デハ初年ニ限り特ニあらく(焼畑モ同様)ト云フ所モアル。

(三) 焼畑及切替畑ノ行ハル、理由

現今焼畑及切替畑ノ行ハル、理由トシテ次ノ如ク大別スル事ガ出來ル。

イ、山岳地多ク農耕地ノ狭少ナル爲行フモノ

現今焼畑及切替畑トシテ最モ多ク行ハル、地方ハ一般ニ地勢急峻ヲ極ムル僻遠ノ山間部デ水田ハ勿論、熟畑ニ適スル地少ナク加之交通不便ニシテ物資ノ運搬意ノ如クナラズ、從ツテ食糧ノ自給自足ノ爲古來ヨリ本作業ハ盛ニ行ハレタモノデアアル。而シ四國地方其ノ他ノ一部ニ行ハル、如ク三極栽培ヲ主目的トシテ焼畑ヲ行フ所モアル、更ニ四國及東北地方ノ一部ノ山間部ニ

於テ葉煙草ノ耕作盛ニナルニ從ヒ、熟畑ニ之ヲ栽培スルガ爲他ノ農作物ハ殆ンド焼畑ニ作付スルガ如ク、他ノ特種農作物栽培ノ影響ニヨツテ焼畑ヲ行フ所モアル、何レニセヨ山間部ニ於ケル農耕地狭少ナル結果デアアル。即チ現在本邦ニ於ケル焼畑總面積七萬七千四百十四町步中三萬一千六十二町步ハ農作物ノ收穫ヲ目的トシテ行ハル、モノデアアル。

近年經濟的變動ノ山村經濟ニ及ボシタル影響ハ燒畑作業ニモ幾多消長ヲ來タシタガ、頓ニ深刻化セル山村ノ不況ハ益々經濟的破綻ノ度ヲ強メ、之ガ緊急對策トシテ食糧自給問題ハ山村更生ノ重要部門ヲ占ムルニ至リ、從ツテ耕地乏シキ山村ニ於ケル經濟更生計劃中ニ本作業ヲ認ムルノ止ムナキ地方モ尠クナイ。

ロ、造林費及手入費輕減ノ爲行フモノ。

燒畑及切替畑總面積ノ六割ハ造林費及手入費ノ輕減ヲ目的トシテ行フモノデ、其ノ作業中農作物ノ收穫ハ全ク副産物デアアル。即チ林業盛ナル山間部ニ於テ雜草荊棘ノ繁茂甚シク造林地ノ地拵、下刈手入等ニ多額ノ經費ヲ要スルモノニアリテハ、燒畑ヲ行フ事ニヨリテ著シク之ガ經費ヲ輕減シ得ルノデアアル、然レドモ之ニヨル人工造林ニ長短得失アルハ言フ迄モナイ。

以上ハ燒畑及切替畑ノ行ハル、最大原因デハアルガ、肥料ノ供給困難ナル僻陬ノ山村ニ於テ殆ンド肥料ヲ用ヒザル本作業ガ歡迎サル、所以ノ一ツデモアル、又地方ニヨリテハ連作ヲ忌ミ常ニ新地ヲ必要トスル作物ノ爲或ハ病蟲害豫防ノ爲行フ所モアル。

由來燒畑及切替畑ノ行ハル、山間地方ニ於テハ、僅少ノ耕地ニヨル農業ト林業ニ從事スル以外特別ノ産業ナク、加フルニ交通ノ不便ハ林業ノ經濟的眞價ヲ充分ニ發揮シ得ザル状態デ、過剩勞力ヲ之ニ集注セルモ經濟的平衡ヲ保ツ事ガ出來ナイノデア

ル。而シテ之等山村ノ過剩人口ハ他ニ生産業ヲ求メテ他出シタノデアルガ、尙ホ村内ニ殘レル過剩勞力ハ其ノ疏通口ヲ燒畑及切替畑ノ作業ニ求メ、穡カニ其ノ日ヲ糊シタノデアアル。而カモ過グル好況時代ニ於テハ之等山村ノ過剩勞力ヲ吸集シ盡シ、本作業ノ如キハ著シク衰頽ノ狀ヲ呈シタノデアツタガ、次デ襲來セル經濟恐慌ニ打續ク近年ノ不況ハ、亦モ山村ノ過剩勞力ヲ來タシテ再ビ本作業ニ從事スルノ止ムナキニ至ツタ地方モ尠クナイ。

第二 燒畑及切替畑ノ現狀

一、燒畑及切替畑面積並其戸數

本邦ニ於ケル燒畑及切替畑ノ總面積ハ七萬七千四百四十四町步ニシテ農耕地總面積（燒畑ヲ行フ町村ノミノ農耕地）四十九萬九千八百五十一町步ノ一割五分ニ當リ、山岳多ク耕地少ナク而カモ人口甚シク稠密ナル本邦ニアリテハ、山岳地ノ開墾モ亦已ムヲ得ザル現狀ニモアルガ、本邦ノ地勢一般ニ急峻加フルニ地盤脆弱ナル所多キニヨリ之等山岳地方ノ燒畑開墾ハ治水上ニ及ボス影響ノ頗ル多大ナルモノガアル、殊ニ農作物ノ收穫ヲ主目的トスル燒畑甲即チ治水上最モ重大ナル關係ヲ有スルモノハ三萬一千餘町步デ、總面積ノ四割ニ當ツテ居ル。而シ殘リ六割即チ四萬六千餘町步ハ造林地拵的燒畑デ、造林ヲ主目的トシ稍ヤ前者ニ優ルモ、亦治水上ニ及ボス影響モ尠クナイ。

燒畑及切替畑ヲ行フ町村數ハ凡テ千四百四十四ニ達スルガ其最モ多キハ新潟ノ九九ヲ第一トシ、愛媛ノ八九、熊本七六、鹿兒島六八等之ニ次ギ最少ナキハ栃木ノ二ヶ町村デアアル。又燒畑ノ大部分ハ私有地デ公有ハ四千町步ニ過ギナイ。

今次ニ府縣別燒畑及切替畑面積並其戸數等ヲ示セバ左ノ通り。

府縣別燒畑及切替畑面積並戸數調 (二)

地方	燒畑及切替畑計	燒畑及切替畑以外ノ農耕地面積	農耕地ニ對スル燒畑及切替畑ノ割合	總戸數	燒畑及切替畑ヲ行フ戸數	總戸數ニ對スル燒畑及切替畑ヲ行フ戸數割合	燒畑及切替畑ヲ行フ平均面積
青岩	1,100	4,600	24%	2,666	1,173	44%	0.94
宮城	1,549	14,635	11%	15,233	2,491	16%	0.64
山形	277	5,010	6%	8,141	931	11%	0.33
福島	477	10,950	4%	14,426	3,133	22%	0.55
茨城	530	13,910	4%	10,301	2,403	23%	0.33
栃木	5	1,490	0%	3,099	1	0%	0.33
群馬	500.8	7,975	6%	1,556	1,133	73%	0.10
千代田	507	4,537	11%	7,101	1,854	26%	0.90
東京	81.7	1,907	4%	8,388	5,133	61%	0.16
神奈川	476	5,310	9%	6,973	1,284	18%	0.36
新潟	1,680	49,457	3%	16,819	9,285	55%	0.18
富山	877.9	6,666	13%	29,383	5,156	17%	0.26
石川	1,889	10,755	17%	10,133	1,994	20%	0.26
福井	79	15,531	0%	26,871	4,337	16%	0.28
山梨	1,103	8,744	13%	17,844	3,563	20%	0.28
長野	53	5,361	1%	9,243	1,010	11%	0.25
岐阜	1,044	4,631	23%	6,897	1,550	22%	0.25
静岡	3,943	8,744	45%	15,650	3,886	25%	1.01
愛知	5	4,521	0%	7,492	177	2%	0.30

地方	燒畑及切替畑計	燒畑及切替畑以外ノ農耕地面積	農耕地ニ對スル燒畑及切替畑ノ割合	總戸數	燒畑及切替畑ヲ行フ戸數	總戸數ニ對スル燒畑及切替畑ヲ行フ戸數割合	燒畑及切替畑ヲ行フ平均面積
滋賀	24	8,381	0%	1,881	1,881	100%	0.05
京都	157	14,777	1%	14,833	1,480	10%	0.11
奈良	19	257	7%	801	80	10%	0.04
和歌山	8	8,600	0%	16,869	4,338	26%	0.33
鳥取	548	3,491	16%	7,349	2,333	32%	0.26
島根	88	18,499	0%	27,279	3,777	14%	0.10
岡山	277	6,097	5%	5,617	689	12%	0.09
広島	1,140	5,851	20%	2,433	1,340	55%	0.28
山口	37	3,491	1%	1,340	689	51%	0.09
徳島	37	5,851	0%	1,340	689	51%	0.09
香川	5,494.4	33,640.6	17%	6,835	8,843	129%	0.26
愛媛	2,932.2	30,328	10%	3,876	3,300	85%	0.10
高知	2,189	14,770	15%	5,040	4,998	99%	0.10
福岡	51.3	2,640	2%	4,423	498	11%	0.10
佐賀	147	3,133	5%	3,884	343	9%	0.09
長門	10,352	40,164	26%	5,667	3,968	70%	0.14
熊本	1,278	15,551	8%	28,271	3,965	14%	0.03
大分	1,194.9	8,975.4	13%	17,743	3,436	19%	0.06
宮崎	2,733	8,880	31%	14,261	3,805	27%	0.09
鹿児島	193	1,800	11%	4,334	1,088	25%	0.18
沖繩	193	1,800	11%	4,334	1,088	25%	0.18
計	47,817.5	499,881.7	10%	317,123	131,028	41%	0.14

備考 一、本局ノ調査ニヨレバ奈良縣下ニ於テハ十津川沿岸地方ニ於テ燒畑及切替畑相當行ハレテ居ルガ面積其他不明ニ付掲記シナイ。
二、本表ニ掲記セル燒畑及切替畑以外ノ農耕地面積並總戸數等ハ燒畑及切替畑ヲ行フ町村ノミノ總計テ、全縣下ノ耕地面積及戸數デハナイ。

テ全國大小二百五十四河川ノ流域中、最モ多キハ仁淀川ニシテ實ニ愛媛、高知二縣ニ跨ガリ一萬五千八百一十一町歩ニ及ビ、次
 デ球磨川(熊本、五、四八五)、吉野川本流(高知徳島、五、三四五)及四萬十川(高知、五、〇〇四)流域ハ何レモ五千町歩以上ニ達シ、
 更ニ物部川(高知、四、七〇一)、肱川(愛媛、一、五八〇)、新莊川(高知、一、四五〇)、矢部川(福岡、一、三七九)、氷川(熊本、
 一、二二〇)、馬淵川(青森岩手、一、一四〇)、圓山川(兵庫、一、一〇四)、手取川(石川、一、〇六七)、銅山川(愛媛、一、〇二
 七)、興津川(静岡、一、〇二五)、神通川(富山岐阜、二、〇一四)等ノ順位デ何レモ一千町歩以上ノ大面積ヲ有シテ居ル。尙ホ五
 百町歩以上ノモノハ菊地川(熊本、九三四)、耳川(宮崎、八四七)、安倍川(静岡、八四五)、富士川(山梨静岡、六三五)、緑川
 (熊本、六二八)、瀬月内川(岩手、六〇二)、小丸川(宮崎、五四七)、旭川(岡山、五二六)等デ、又甲ノ面積ノミ一千町歩以上
 ニ及ブモノハ、仁淀川(七、四二二町歩)、吉野川(二、一三〇)、球磨川(二、〇三一)、四萬十川(一、五八二)、物部川(一、二〇
 七)、新莊川(一、二五〇)、手取川(一、〇二一)等デアル。

今之等河川流域別ニ焼畑及切替畑面積ヲ示セバ次ノ如クデアル。

各河川流域別面積調 (甲ハ農作物ノ收穫ヲ主トスルモノ) (乙ハ林木ノ利用ヲ主トスルモノ)

府縣	流域名	甲	乙	計	備考
青森	岩木川	九四六	一四三	一、〇八九	岩手 甲四一、乙二〇、計六一
馬淵川	計	九五二	一四八	一、一〇〇	
乙部川	石川	三・九	〇・八	三・九	
計		一・七	〇・八	二・五	

秋田	岩手	計	計	備考	
阿仁川	神賀川	二三〇	三五	二六五	青森 甲九四六、乙一四三、計一〇八九
米代川	和賀川	一六・五	一	一六・五	
子吉川	大槌川	四四・五	一	四五・五	
玉川	鶴住居川	五〇二	一〇〇	六〇二	
山内川	八首川及廣瀬川	四一	一〇	五一	
皆瀬川	瀬月内川	三一	一〇	三二	
成瀬川	馬淵川	四四	一〇	四八・八	
其ノ他	小本川	八三	四・八	八三	
計	閉伊川	二二	〇・六	二二	
	田老川	八四	〇・六	八九	
	吉濱川	二二	五	二七	
	今泉川	一七・二	五	二二	
	其ノ他ノ河川	一、三八七・六	一七・二	一、五六四・八	
計		一五五	二二	一七七	

石川	富山	
尾大 手梯 梯大 動 川取 川支 川聖 橋 川川 流川 川寺 川	其間 上小 庄神 常白 早片 黑小 篁境 計ノ 鳥庄 矢部 通願 岩月 貝部 他川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川	計
一、〇一 三〇五 八五	三六六・二 四三三 四三三 五四・八 四九 七七・二 二六 一三 一五 二七 九〇・二	九三三
一 二四 七五 七二	四八・七 九九・七 二九 二八 四四 五〇 七一 三五 四八 二七 四五 三二	七五八
一 二四 五六 一七 一〇 七〇	八四七・九 一四二・七 三二 七一 九八・八 九九 一四八・二 六一 六一 四二 七二 九〇・二	一、六八〇
一〇四 三二九 一〇六七 四一 一〇 八二 九二	岐阜 甲五九二、乙二七四、計八六六 岐阜 乙一一	

新	
其早 國荷 大 三 荒 姫 能 名 柿 關 保 鯖 澁 魚 刈 阿 能 五 早 加 信 加 ノ 府 荷 面 生 立 崎 倉 石 海 野 谷 賀 代 十 出 茂 濃 治 他川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川 川川	
一 二二 二二 二七 一九 四 六 五 三 五 〇 一 一 五 九 二 二 五 一 二 五 一 五 七 七 八 四 一 二 七 三	一 二二 二二 二七 一九 四 六 五 三 五 〇 一 一 五 九 二 二 五 一 二 五 一 五 七 七 八 四 一 二 七 三
一 六 〇 〇 二 二 七 一 八 一 〇 九 九 四 七 一 一 四 七 四 三 一 一 四 五 九 二 三 七 一 八 二 七 五 〇 一	一 六 〇 〇 二 二 七 一 八 一 〇 九 九 四 七 一 一 四 七 四 三 一 一 四 五 九 二 三 七 一 八 二 七 五 〇 一
二 八 二 二 四 九 五 六 二 二 一 一 七 四 九 三 九 四 二 八 一 七 〇 三 九 八 六 一 五 六 一 一 六 三 〇 四 五 五 九 二 九 二 二 七 四	二 八 二 二 四 九 五 六 二 二 一 一 七 四 九 三 九 四 二 八 一 七 〇 三 九 八 六 一 五 六 一 一 六 三 〇 四 五 五 九 二 九 二 二 七 四
	福島 甲一六、乙一、計一七

静岡	岐阜	長野
水太 瀬 安 巴 興 富 黄 鮎 狩 河 仁 窪 田 井 戸 科 倍 津 士 瀬 澤 野 津 科 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川	庄 神 飛 長 揖 計 通 那 良 斐 川 川 川 川 川	矢 天 計 作 龍 川 川
三〇 二七 二九〇 一六〇 二〇五 三三	六六六 五九二 一一二 一一二	二三五 五六
六七 四〇 一、〇五八 三六 一四三 六八五 七七 八二〇 一四四 三四 二八 二六 一三	三九八 一一 二七四 二一 六七 二五	二〇二 二九六
九七 六七 一、三四八 三六 一四三 八四五 七七 一、〇二五 一七七 三四 二八 二六 一三	一、〇一四 一一 八六六 三三 六七 三七	五三一 二五八
山梨 甲九九、乙三六〇、計四五九	富山 甲四九、乙五〇、計九九 富山 庄川、上庄川 甲九二、乙七八、計一七〇	静岡 乙一〇 愛知 乙二二

	山梨	福井	石川
千 丹 小 道 桂 早 富 笛 釜 曲 計 波 菅 志 士 吹 無 川 川 川 川 川 川 川 川	其 日 足 九 計 ノ ノ 羽 頭 龍 他 川 川 川	其 山 羽 森 津 淺 計 ノ 田 川 下 幡 野 他 川 流 川 川 川	
一七八 五七四 二〇 四三 二〇 一三八 二一〇 九九 一一 三三	二四七 六三 一七 四〇 一一二 二二七	一、六五五 一〇 二一 五二	
九二 六二九 一五 二五 一八四 三〇 三六〇 一一	五三二 三六 六〇 一四八 二八八	二三四 二〇 五〇 五〇 一〇 四	
二七〇 一、一〇三 三五 四三 四五 三二二 二四〇 四五九 一四 四五	七七九 九九 七七 一八八 四一五	一、八八九 一二 一〇 五〇 二六 一〇 五六	
静岡 甲三三、乙一四四、計一七七			

山口	岡山	島根	鳥取	和歌山	
厚厚錦 東狹川 川川川	吉旭高 計井梁 川川川	其 計ノ 他	日天勝千袋蒲 計野神部代生 川川川川川	有 計田 川	其岸 計ノ田 他川
一三	二〇四 一六四 四〇	一一	一六六 一三〇 一〇七 一六		一、三七八・六 三〇五・六 二一・二
一〇 六二 一七	五五七 四五 四八六 二六	八七 八七	三八二 八七 八 九三 一四五 一〇 三九	一九 一九	六九・四 七〇 八四二
一〇 七五 一七	七六一 二〇九 五二六 二六	八八 八八	五四八 八七 二一 一二三 二五二 一〇 五五	一九 一九	二、二二〇・六 三七五 二八一・二

兵庫	京都	滋賀	愛知	静岡
矢佐竹園千揖市加 田津野山種保古 川川川川川川	其由 計ノ良 他川	余姉 計吳 川川	矢豐天 計作龍 川川川	其天氣 計ノ龍多 他川川
六九・二 一六・二 二・八 七四八・三 二二 三・三	二 二	一四 九五		七五三 八
八六・二 四二・五 一一・一 三五五・三 一八二・四 二四・一 一	一五五 二二 一三三	一〇 八二	五三 二二 一三〇	三、一八九 二四 一〇二
一五五・四 五八・七 一三・九 一〇三・六 二〇四・四 二四・一 一	一五七 二二 一三五	二四 一七七	五三 二二 一三〇	三、九四二 三二 一〇二
			長野 甲一、乙二、計三	長野 甲五六、乙二〇二、計二五八

鹿兒島	宮崎	大分
思廣野川神永萬甲 瀬田内之吉瀬突 川川川川川川川	其小一耳五五 計ノ丸ツ十ヶ 他川川川川川	番筑北大山安武 計匠後野國岐藏 川川川川川川川
四〇一 八〇二 六八〇	五二八・八七 一四七・三 一二四・五七九	二二二 一一一 四一三 六一〇 二〇一
六〇八 一二〇七 二〇二九 三〇	一、六七六・一 一二四・七 二四二・三 六九九・四 一〇一	一、〇四六 一四四 四五三 六七二 三〇九 二二
一〇〇九 一二〇〇 一五〇二 二〇九七 四〇	二、一九四・九 一三一・七 五四七・五 三四二・四 八四六・七 一〇	一、二七八 二六五 四五七 一五 一二八 三二九 三二
		熊本乙三〇

	熊本	長崎	佐賀
田富來伊眞桂八 深來浦美玉坂 川川川川川川川	本槻筑水球線菊 計土其木後磨池 他川川川川川川	其 計ノ 他	其鹿鹽六 計ノ島田角 他川川川
七 五	三、一四〇 九三三 四六三 二、〇三一 三五七 一九三		
二〇三 六二 一四 一	七、二一一 一、九〇四 六四三 三〇 七四七 三、四五四 二七一 七四一	一四七 一四七	五、一二三 三〇 二一
二七 二三 六二 一 一九 一	一〇、三五〇 一、九九七 六七 三〇 一、二一〇 五、四八五 六二八 九三四	一四七 一四七	五、一二三 三〇 二一
	大分甲四、乙四五三、計四五七		

關係縣名	流域名	甲	乙	計	備考
靜長 靜山 岐富 岐富 埼群 栃茨 新福 岩青	天龍川 富士川 庄通川 神利川 玉山 木城 湯島 阿賀川 馬淵川	五六	二一二	二六八	
岡野 岡梨 阜山 阜山 玉馬 木城 湯島 阿賀 馬淵	龍士川 通根川 利根川 那珂川 阿賀川 馬淵川	一三二	五〇四	六三六	
		四九	六一	一一〇	
		六六九・二	三四五	一、〇一四・二	
		二五	四八	七三	
		二	三七	三九	
		七三	六〇	一三三	
		九八七	一五三	一、一四〇	

合	計
安波 安田 楚洲 奥戸 邊戸	一一九 一〇六・五九〇 二・五
三、一〇六・二	六三
四六、三五二・一	一九二 一〇六・五九〇 二・五
七七、四一四・三	



沖繩	鹿兒島
ブ邊 野喜 佐手 謝數 與那 伊地 伊良 又伊 大保 比地 有銘 川田 鹽屋 腕波	其雄 肝大 菱淀 檢田 新校 別府
一〇五 三三三 三三五 三三五 一四五 二五五	計ノ 他川 川川 川川 川川 川川 川川
三三三 三三五 一四五 二五五	一、四六三 八八一 八〇九 四九二 一三二 四〇〇 一五八
	一、三〇〇 四二六 一二〇 九二三 五七三 七八〇 一〇七 七六
一〇五 三三三 三三五 三三五 一四五 二五五	二、七六三 一、三〇七 二〇〇 一四一 一五九 一八〇 二六〇 七六

	大熊	愛高	高德	愛長
	分本	媛知	知島	知野
	筑後川	仁淀川	吉野川	矢作川
計	一一、五四九・五	七、四二一・三 四	二、一三〇	一
	一一、五〇一・二	七、七五九・二 八三	三、二一五	二四
	二四、〇五〇・七	一五、一八〇・五 八七	五、三四五	二五

三、燒畑及切替畑ノ方法

(一) 小作關係

燒畑及切替畑ノ耕作ヲナスモノハ之ヲ次ノ如ク大別スル事ガ出來ル。

1. 土地所有者ノ自作ニヨルモノ。
2. 他人ノ土地ヲ賃借シテ耕作ヲナスモノ、及他人ノ造林豫定地ニ對シ造林地ノ地拵植付等ヲナス代償トシテ之ヲ行フモノ。
3. 前二者ヲ兼ネ行フモノ。

第一項ニ屬スルモノハ交通不便ナル僻陬ノ奥山ニアリテ、農作物ノ收穫ヲ主目的トスルモノデ(甲ノ場合)、自家用食料ノ生産ヲ圖ル爲メデアル。

而シ林産物ノ收穫ヲ主眼トスル地方ニ於テハ(乙ノ場合)、自ラ耕作ヲナスモノアルモ、比較的尠ナイ。

第二項中他人ノ土地ヲ賃借スル甲ノ場合ニ於テ、其ノ簡單ナルモノハ、土地ヲ借リタル代償トシテ農繁時ニ手傳ヲ爲ス程度ニ過ギナイガ、又小作料トシテ收穫物ノ幾分ヲ納入スルモノモアル。之等ハ最高ハ作分ト稱シ五分々々ニ分收スル所モアルガ(熊本地方)、普通二割内外ヲ地主ニ納メ、少シク遠隔ノ地ノ燒畑作ニアリテハ一割程度デアル、而シ又地方ニヨリテハ金納ヲナス所モアリ一反歩大要一圓内外デアル。

林産物ノ收穫ヲ主目的トスル乙ノ場合ニ於テハ、燒畑ハ即チ地拵ナルガ爲メ、造林地ノ地拵ノ代償トシテ木場作ヲナサシムルモノデ、其ノ收穫セル農作物ハ土地使用ノ所得トスルノデアル、而シ地方ニヨリ多少ノ相違ハアル。

山梨縣南巨摩郡萬澤村地方ニテハ食料タル農作物ノ外杉、扁柏ヲ植栽セル間ニ三極ヲ植エ又同時ニやまはんのきヲ混植スルガ、三極、やまはんのきノ苗木ハ小作人ノ自辨トシ、杉又ハ扁柏等ノ植栽ハ勿論其後ノ手入保護等ハ小作人ヲシテ當ラシメテ居ル、而シ此間小作料ハ少シモ徵收セズ、農作物ハ凡テ小作人ノ所得トシ、又植付後十二、三年ニシテやまはんのきヲ伐採スルモノモアルガ之モ小作人ノ所得トサレテ居ル。

亦高知縣香美郡檜山村地方ニ於テモ、杉ヲ植栽セル間ニ普通作物ノ外三極ノ植栽ヲナサシムルモノハ、之等ハ凡テ小作者ノ所得トシテ居ル。何レニヨルモ小作人ハ三極栽培ノ爲年ニ二回雜草ノ刈拂ヒヲ行フヲ以テ特ニ造林地ノ下刈ヲ要シナイ、斯クテ樹木生長シ既ニ三極ノ發育セザルニ至レバ林地ヲ地主ニ返還スルノデアル。

第三項ニ屬スルモノニモ甲、乙二様アルガ、前二法ヲ併セ行フノデアル。之ヲ要スルニ小作關係ヲ見ルニ第一項ハ甲ノ場合ニ最モ多ク、第二項後段ノ方法ハ乙ノ場合ニ於テ廣ク行ハレテ居ル。

(二) 燒畑及切替畑ノ現狀

イ、地 勢

現在我國ニ於テ燒畑及切替畑ノ行ハル、地方ハ、一部造林ノ地拵トシテ行ハル、所ノ外、何レモ交通不便ナル奥山デ、緩傾斜ノ所ハ普通ノ田畑トシテ耕作セラル、ガ爲、燒畑ハ最モ峻嶒地ニシテ傾斜三、四十度以上ノ所ニ多イノデアアル。而シテ普通農作物ハ北面ニ作付スルモノ少ク、西又ハ南面等ニ多イガ、唯四國地方ノ如ク三極ノ栽培盛ナル所ニ於テハ北面ノ急傾斜地マデ至ル所ニ栽培サレテ居ル。

概シテ燒畑及切替畑ノ行ハル、所ハ傾斜頗ル急峻ナルト、又一度燒畑ヲ行ヒタル後地力恢復ノ爲特殊樹種ノ植栽ヲナスニアラザレバ、遂ニ雜草、熊笹等ノ荒廢林地ト化シ、甚シキ山崩ヲ起シテ土砂ヲ押出シ、治水上ニ及ボス影響ハ頗ル多イノデアアル。殊ニ四十度以上ノ絶峻地ニアリテハ假令山崩ノ如ク一時ニ土砂ヲ流出スルコトナキモ、表土ハ絶エズ洗ヒ流サレテ地味著シク瘠惡トナリ、治水上ニモ甚シキ惡影響ヲ及ボスモノデアアル。

ロ、林 況

山間ノ奥地ニシテ初メテ燒畑ヲ行フ森林ハぶな、そろ、しで、かへで、ほほ、なら、こなら等ヲ混ズル所デ、更ニ暖帶地方ニ至レバしひ、かし類等ヲ混ズル雜木林デアアル、もみ、つが、まつ等ノ如ク針葉樹ヲ混ズル山頂ニ近キ所ニ行フ事少ナキハ、之等ハ其落葉中ニ含有スル養分少ナク、土地肥沃ナラス、從ツテ燒畑トシテ農作物ノ收穫少ナキニヨルモノデアアル。徳島縣祖谷山地方ニ於テハ其ノ雜木林ノ樹齡ニヨリ燒畑ノ優劣ヲ定メテ居ル、即

上畑 樹齡三十年生以上ノ雜木林ヲ燒キタルモノ

中畑 同二十年乃至三十年平均二十四、五年生ノモノ

下畑 同二十年以下普通十四、五年生ノモノ

之等ハ雜木林ヲ伐リ拂ヒヲ燒却セル灰ノ量及土壤中ノ有機肥料分ノ如何ニヨリテ斯クノ如ク區別シ、特ニ三極栽培ノ場合ハ小作料ニモ影響スルノデアアル。而シ第一回ニ燒畑ヲ行フトキハ地力著シク疲弊スルガ故ニ、既ニ農作物ノ收穫著シク減退スルニ至レバ、耕作ヲ廢止スルト同時ニ又ハ一兩年前ニやまはんのき其他ノ樹種ヲ植栽シテ地力ノ恢復ヲ圖リ第二回ノ準備ヲナス地方モアル、斯カル場合普通十四、五年以上ノ間隔ヲ以テ繰返サレテ居ル。

造林地ノ地拵ノ爲メニ行フ燒畑(乙)ニアリテ雜木林ヲ伐採シ、すぎ、ひのき林等ニ改メントスル場合ハ、略前者ト同一ナルモ第二回以後ニ於テハ、伐期毎ニ其跡地ヲ燒キ農作ヲ施スニ過ギナイモノデ、一般ニすぎ、ひのきノ如キ針葉樹林ニハ普通ノ燒畑(甲)ハ行ハレナイノデアアル。

ハ、切替期及作付年數

一度燒畑ヲ行ヒ農作ヲ廢止セル跡地ニ自然ニ生ゼル林木ハ再ビ或ル年數ヲ經過セル後、更ニ燒畑ノ繰返サル、ノデアアルガ、之ノ年數ヲ切替期ト云フノデアアル。而シテ或ル地方ニ於テ燒畑ノ初メテ起ル時代ニハ千古不餓ノ原生林ヲ伐リ拂ツテ行ハレタノデアアルガ、時代ノ進歩ニ連レ、其原生林中ヨリ貴重ナルすぎ、ひのき其他ノ有用樹ヲ擇伐利用シテ、劣等ナル林木ノミ燒拂ハレテ農作物ノ作付ヲシタノデアアル、而シ其作業ノ回ヲ重ヌルニ從ヒ、又時代ノ進運ニ伴ヒ、著シク其期間ハ短縮セラレテ來タノデアアル。

現在切替期ノ最モ長キハ五十年、最短三年デ、普通十五年乃至二十年前後デアアル。今各府縣ニ就テ見レバ群馬縣多野郡、埼玉縣秩父郡、長野縣下高井郡地方ハ何レモ三十年乃至五十年ニシテ最モ長イ地方デ、沖繩縣國頭村地方ノ三年乃至六年、鳥取縣八頭郡地方ノ五年乃至七年ガ最短デアアル。

次ニ乙ノ場合ニ於テハ此所デ言フ切替期ハ殆ンド伐期ト同様デ二、三年間ノ農作期間ヲ加算シタ程度デアアル、すぎ、ひのき

林ナルトキハ普通四、五十年、松林ナルトキハ熊本ノ十五年ヲ最短トシテ普通三十四、五年、神奈川、東京地方ノ如ク、やしやぶし、又ハヤマハンのきノ利用ヲ目的トシテ植栽スル地方ハ十年乃至二十年普通十三、四年デ、桐ヲ植栽スル岩手縣内川目地方デハ十五年乃至二十年、又栃木地方ノ如ク櫟林ノ植栽ニアリテハ其更新期毎ニ燒畑作ヲナスモノデ三十八年デアル。

作付年數ハ最小一年、長キモ十ヶ年ヲ出デズ、普通四、五年デ、三極、楮、桑ノ如キ樹種ヲ栽培スル地方ニ於テ八年乃至十年ニ及ブモノアルモ、其ノ他ノ農作物ヲ耕作スル場合群馬縣多野郡地方ニテ十ヶ年ニ達スルモノアル外長クモ六ヶ年ヲ出ヅルモノハ少ナイ。

ニ、農作ノ種類

燒畑及切替畑ニ於テ農作セラル、種類ハ多様デアルガ、特ニ多ク耕作サル、ハ蕎麥デ、燒畑ト最モ密接ナ關係ガアル。次ニ作付ノ多キハ粟、大豆、小豆等デ、二十數縣ニ及ビ、稗、大根、里芋、甘藷、陸稻、三極ハ之ニ次ギ、其ノ他小麥、大麥、燕、桑、蒟蒻、西瓜、楮、茶、玉蜀黍、馬鈴薯、薄荷、牛旁、菜油、荏、カラシ、胡麻等ノ順位デ頗ル多種デアル。而シテ蕎麥、粟、大豆、小豆、大根等ハ殆ンド全國的デアルガ稗ハ岐阜縣以東主トシテ北日本ニ多ク栽培サレ、三極ハ中國、四國ニ多ク甘藷ハ四國、九州方面ニ於テ栽培サレテ居ル、而モ三極ハ高知ヲ筆頭トシ、愛媛、徳島ニ於テモ燒畑ノミニ栽培スルモノデ特ニ注目ニ値スル。之等ハ殆ンド土佐半紙ノ原料トサレ、又山梨縣ニテ栽培セルモノハ所謂駿河半紙ノ原料トサル、モノガ多イ、而モ之等三極、楮等二、三ノ特用作物ノ外ハ殆ンド自家用ニ供スル食料デ、又桑、茶ノ栽植ヲナス地方二、三ヲ數フルモ、何レモ自家用デアル。

ホ、農作ノ方法

燒畑及切替畑ニ於ケル作付年數ハ曩ニ記述セルガ如ク特殊ノ場合ノ外ハ二、三年ガ普通デ三、四年ニ及ブハ肥沃地デアル、

而シテ初年耕作ノ種類ハ蕎麥最モ多ク、次デ粟、稗等デアルガ、一般ニ燒畑ニ於ケル初年ノ作物トシテハ蕎麥ガ最モ適當スルノデアル、即チ春夏ノ候森林ヲ燒拂フトキ、地拵ノ爲、比較的長日月ヲ要シ、他ノ作物ニテハ既ニ播種期ヲ失スル虞アルモ、蕎麥ハ僅カ四、五十日ノ短日月ニテ收穫シ得ラレ、季節後レニテモ差支ナキ故デアル。

二年目ニハ粟ヲ播キ、又ハ大豆、小豆等ノ豆類ヲ播ク所モ多イガ、之等作付ノ種類ハ地方ニヨリテ異ナル。又連作スル場合モアルガ、多クハ年々其ノ種類ヲ異ニシテ居ル。

第三年目ニ於テモ第二年目同様ノ種類ヲ作付スルガ普通デアル、而シ乙ノ場合ニ於テハ稍趣ヲ異ニシ、初年ニ大根、燕、菜里芋、陸稻等ヲ作ルモノ割合ニ多ク、概シテ多種多様デアル、次ニ作付方法ヲ記述スル。

甲ノ場合

第一年ノ作付 蕎麥

地拵 初メテ燒畑ヲ行ハントスル森林、又ハ既ニ切替期ニ達スル雜木林ハ春秋ノ間ニ伐採スルノデ、普通十五、六年生ノモノハ未ダ甚ダシク太カラザル故、大部分ハ鉋ヲ以テ伐ルコトガ出來ル、而シ稍太キ幹ハ之ヲ別ニシ燒拂後ノ土止用トナスモ、(若シ交通便ニシテ製炭用ニ供シ得ル地方ナラバ多少木炭トナス)其他ノ枝葉ハ之ヲ一面ニ撒布シ置キ、乾燥ヲ待チテ燒拂フノデアル。

現在森林ノ火入取締嚴重ナルヲ以テ、之ガ火入ヲ行ハントセバ、警察官署ヨリノ許可ヲ得ルハ言フ迄モナク、燒畑ノ多ク行ハル、部落ニ於テハ、一個人ノミノ許可出願ニ手數ヲ要スル故、總代ノ手ニヨリ一括シテ出願スル地方モ尠クナイ。其何レタ

ルトヲ問ハズ許可後靜穩ノ日ヲ選ビ、先ヅ周圍ニ防火線ヲ作り山腹ノ上部又ハ風下ヨリ點火シテ火ノ廻リヲ徐々ニシ、以テ燃焼ヲ完全ニスルノデアアル、而シテ春季ノ燒拂ニ於テハ往々延焼ノ憂アルニヨリ部落民共同シテ周圍ニ消防夫ヲ配置シ、夜間ニ於テ行フ所モアル、之レ夜間火入ハ甚ダ明瞭ニシテ延焼ヲ豫防シ得ル爲メデアアル。斯クノ如クシテ燒拂フモ稍太クシテ燒ケ殘リタルモノハ之ヲ集メテ再ビ燒キ又急峻ナル所ナラバ太キ幹ヲ以テ土止ヲナスノデアアル。

右ノ如ク伐採ヨリ燒拂ニ要スル人夫數ハ勿論地勢、樹齡等ニヨリ異ナルガ、一反歩當伐採ニ五、六人、燒拂ニ二人アラバ十分デ、各府縣ノ實例ニ就テ見ルモ平均十人内外デアアル。

而シテ之等燒畑ノ伐採ヲはたきり(畑伐)ト云ヒ、燒拂ヒヲはたき(畑燒)ト稱シ、又ハ火野燒ト云フ地方モアル、又地拵ヲ火野拵トモ言ツテ居ル。

播種 既ニ地拵出來タルトキハ土地ノ十分ニ冷却セル後蕎麥種子ヲ撒播トシ、灰及土ト能ク混ゼシムル爲メ以テ掘り起シ、又ハ熊手ノ如キモノヲ以テ搔キ均スノデアアル、而シテ播種量ハ地方ニヨリ異ナルモ一反歩當普通三升乃至五升平均四升内外デ、其ノ播種季節ハ土用入十日内外ノ頃ヲ好季トシテ居ル。播種ニ要スル人夫ハ大要一反歩二、三人デアアル。

手入保護 播種後殆んど手入ノ要ハナイガ、發芽後二、三週ノ頃雜草ノ甚シク發生スルトキハ除草スル程度ニ過ギナイ。

收穫 蕎麥ハ普通播種後七十五日デ熟スルニヨリ之ヲ刈り取り所謂穀穀トスルガ、收量ハ土地ノ良否其他ニヨリ異ナルモ反當五斗乃至一石五、六斗ノ範圍デアアル。

第二年ノ作付 粟

蕎麥ヲ收穫セル跡地ニ於テ其ノ根及草根等ヲ掘り起シテ地拵ヲナシ、之ニ少シク畦ヲ作りテ種子ヲ播種スル。四、五回簡單

ナル除草ヲナシ反當收量八斗乃至一石二、三斗。

第三年ノ作付 大豆又ハ小豆

第三年ノ春粟ノ畦株ノ間ヲ耕シテ大豆又ハ小豆ヲ播クガ、又粟ノ根ヲ掘起シテ地拵スル所モアル、手入トシテ四、五回除草ヲ行ヒ、收量一石内外。

以上ノ如ク普通三ヶ年間作付ヲナシ、地力著シク衰フルニ至レバ耕作ヲ廢止シテ自然ニ放置スルノデアアルガ、尙ホ地力アル場合或ハ幾分肥料ヲ施シテ更ニ二、三年間作付スル地方モアル。特用作物タル三椏ハ特ニ十年ニ至ツテ放置スルモノガ多イ。

乙ノ場合

第一年ノ作付 蕎麥又ハ稗

地拵 乙ノ場合ニ於ケル燒畑ハ即チ造林ノ地拵デアツテ森林伐採ノ時季ニヨリ蕎麥又ハ稗ヲ作付スルノデアアル、即チ四月頃ヨリ盛夏ノ候ニ森林ヲ(杉扁柏林又ハ雜木林)伐採シテ其ノ枝葉ノ乾燥後燒拂ヒテ蕎麥ヲ播クモノト、秋季伐採シテ翌春三、四月ノ候ニ至ツテ火入ヲナシ稗ヲ播種スルモノトアツテ、春伐ハ蕎麥秋伐ハ稗ニ限ラレテ居ル。其ノ他ノ作物ハ地方ノ狀況ニヨリ大根、里芋等モ作付セラル。

静岡縣安倍郡井川地方ニ於テハ八月下旬ヨリ九月ニ亘リ雜木林ヲ伐採スルガ、其法ハ根切後枝ヲ打拂ツテ堆積シ其ノ上ニ四尺乃至六尺ニ切りタル幹材ヲ一様ニ並ベテ之ヲ乾カシ、翌春三、四月頃ニ至ツテ山燒ヲナスノデ、火入ニ際シテハ之ヲヨク反覆シテ燒却ニツトムルガ、尙ホ大木ハ殘留スルニヨリ之ヲ取出シ傾斜地ノ土寄ニ利用スル、而シテ之等雜木林ノ伐採、燒拂ニ

一反歩當人夫十人内外ヲ要スルノデアル。

播種及手入 火入後稗ヲ播種シ然ル後之ヲ掘り起シテ十分種子ヲ土中ニ入ラシム、播種量反當八合乃至一升。手入トシテハ除草年二回乃至三回行ヒ女人夫ヲ用ヒテ居ル。

收穫 反當七斗乃至一石二、三斗。

第二年ノ作付

多ク小豆デアルガ又粟ヲ作ル。作付面積ハ第一年目ニハ全面積デアルガ第二年目ニハ六割乃至七割デアル。

第三年ノ作付

小豆跡地ニハ粟、粟作跡地ニハ里芋ヲ作ルガ、耕作面積ハ第一年ノ四割乃至五割ヲ利用スルニ過ギナイ。

斯ク二年三年目ニ於テ耕作面積ノ減少スルハ、蕎麥又ハ稗ヲ收穫セル跡地ニ杉若クハ扁柏ノ造林ヲ行フ爲メデアル。

へ、造林樹種

焼畑ヲ以テ地拵トスル所謂焼畑造林ニアリテハ、焼畑ヲ行フ農作物ノ作付期間中、又ハ其農作ヲ廢止セル後ニ於テ植栽スル樹種ハ杉最モ多ク扁柏之ニ次ギ、又櫟モ尠クナイ、其他赤松、落葉松、桐、樺、山赤楊、やしやぶし、あかしあ、大島さくらうるし、くるみ、くり、しゆろ、はぜ、りうきうまつ、及しひ等各種ニ涉ツテ居ルガ、杉、扁柏及櫟ガ主タルモノデ其他ハ何レモ少ナク特殊ノ場合デモアリ亦地方的デモアル。

之等樹苗ノ植栽ハ地方ニヨリ、又樹種ニヨリ一様デナイガ、静岡縣安倍郡地方及徳島縣木頭林業地方ニ於テハ春季焼畑ニ蕎麥又ハ稗ヲ播クト同時或ハ其ノ收穫後ニ杉、扁柏等ヲ植栽シ、引續キ二ケ年耕作ヲナスガ、山梨縣南巨摩郡南部地方ニテハ杉、

扁柏ノ外三極及山赤楊ヲ植栽シ、又岩手縣地方及岐阜縣飛騨地方ニ於テハ焼畑第一年ニ大豆、小豆又ハ稗ヲ作ルト同時又ハ翌年桐ノ植付ヲナス所モアル。(詳細ハ特殊ノ事例参照ノコト)。

以上ノ如ク焼畑造林ニアリテハ作物ノ耕作中苗木ノ植栽ヲナストキハ其ノ生長ニ連レ耕作面積ヲ減少シ、普通農作ハ三ケ年ニシテ耕作ヲ廢止スルガ常デアル。

而シ桑、三極等ノ如キ特用作物ニアリテハ八年乃至十年ニ及ビ、林木生長シテ漸ク鬱閉シ收穫又甚ダ少ナキニ至ツテ中止スルノデアル。

焼畑及切替畑ニ於ケル農作物ノ種類、切替期、作付年數及造林樹種調

地方	農作物ノ種類	切替期		作付年數		造林樹種(乙)
		甲	乙	甲	乙	
青森	蕎麥					スギ、ヒノキ
岩手	蕎麥					スギ、ヒノキ
宮城	蕎麥					スギ、ヒノキ
秋田	蕎麥					スギ、ヒノキ
山形	蕎麥					スギ、ヒノキ
福島	蕎麥					スギ、ヒノキ
茨城	蕎麥					スギ、ヒノキ
栃木	蕎麥					スギ、ヒノキ
群馬	蕎麥					スギ、ヒノキ
埼玉	蕎麥					スギ、ヒノキ
千葉	蕎麥					スギ、ヒノキ
東京	蕎麥					スギ、ヒノキ
神奈川	蕎麥					スギ、ヒノキ
新潟	蕎麥					スギ、ヒノキ
富山	蕎麥					スギ、ヒノキ
石川	蕎麥					スギ、ヒノキ
福井	蕎麥					スギ、ヒノキ
山梨	蕎麥					スギ、ヒノキ
長野	蕎麥					スギ、ヒノキ
岐阜	蕎麥					スギ、ヒノキ
静岡	蕎麥					スギ、ヒノキ
愛知	蕎麥					スギ、ヒノキ
滋賀	蕎麥					スギ、ヒノキ
三重	蕎麥					スギ、ヒノキ
和歌山	蕎麥					スギ、ヒノキ
奈良	蕎麥					スギ、ヒノキ
兵庫	蕎麥					スギ、ヒノキ
大阪	蕎麥					スギ、ヒノキ
京都	蕎麥					スギ、ヒノキ
滋賀	蕎麥					スギ、ヒノキ
三重	蕎麥					スギ、ヒノキ
鳥取	蕎麥					スギ、ヒノキ
島根	蕎麥					スギ、ヒノキ
岡山	蕎麥					スギ、ヒノキ
広島	蕎麥					スギ、ヒノキ
山口	蕎麥					スギ、ヒノキ
徳島	蕎麥					スギ、ヒノキ
香川	蕎麥					スギ、ヒノキ
愛媛	蕎麥					スギ、ヒノキ
高知	蕎麥					スギ、ヒノキ
福岡	蕎麥					スギ、ヒノキ
佐賀	蕎麥					スギ、ヒノキ
長崎	蕎麥					スギ、ヒノキ
熊本	蕎麥					スギ、ヒノキ
大分	蕎麥					スギ、ヒノキ
宮崎	蕎麥					スギ、ヒノキ
鹿児島	蕎麥					スギ、ヒノキ
沖縄	蕎麥					スギ、ヒノキ
計						

地方	農作物ノ種類	切替期		作付年數		造林樹種(乙)
		甲	乙	甲	乙	
青森	蕎麥					スギ、ヒノキ
岩手	蕎麥					スギ、ヒノキ
宮城	蕎麥					スギ、ヒノキ
秋田	蕎麥					スギ、ヒノキ
山形	蕎麥					スギ、ヒノキ
福島	蕎麥					スギ、ヒノキ
茨城	蕎麥					スギ、ヒノキ
栃木	蕎麥					スギ、ヒノキ
埼玉	蕎麥					スギ、ヒノキ
千葉	蕎麥					スギ、ヒノキ
東京	蕎麥					スギ、ヒノキ
神奈川	蕎麥					スギ、ヒノキ
新潟	蕎麥					スギ、ヒノキ
富山	蕎麥					スギ、ヒノキ
石川	蕎麥					スギ、ヒノキ
福井	蕎麥					スギ、ヒノキ
山梨	蕎麥					スギ、ヒノキ
長野	蕎麥					スギ、ヒノキ
岐阜	蕎麥					スギ、ヒノキ
静岡	蕎麥					スギ、ヒノキ
愛知	蕎麥					スギ、ヒノキ
滋賀	蕎麥					スギ、ヒノキ
三重	蕎麥					スギ、ヒノキ
和歌山	蕎麥					スギ、ヒノキ
奈良	蕎麥					スギ、ヒノキ
兵庫	蕎麥					スギ、ヒノキ
大阪	蕎麥					スギ、ヒノキ
京都	蕎麥					スギ、ヒノキ
滋賀	蕎麥					スギ、ヒノキ
三重	蕎麥					スギ、ヒノキ
鳥取	蕎麥					スギ、ヒノキ
島根	蕎麥					スギ、ヒノキ
岡山	蕎麥					スギ、ヒノキ
広島	蕎麥					スギ、ヒノキ
山口	蕎麥					スギ、ヒノキ
徳島	蕎麥					スギ、ヒノキ
香川	蕎麥					スギ、ヒノキ
愛媛	蕎麥					スギ、ヒノキ
高知	蕎麥					スギ、ヒノキ
福岡	蕎麥					スギ、ヒノキ
佐賀	蕎麥					スギ、ヒノキ
長崎	蕎麥					スギ、ヒノキ
熊本	蕎麥					スギ、ヒノキ
大分	蕎麥					スギ、ヒノキ
宮崎	蕎麥					スギ、ヒノキ
鹿児島	蕎麥					スギ、ヒノキ
沖縄	蕎麥					スギ、ヒノキ
計						

(三) 收支關係 (一反步當)

各地方ニテ行ハル、焼畑ノ收支關係ハ地方ニヨリ異ナルガ農作ノ種類、作付年數ノ異ナルモノ等ニツキ例示シテ見ヨウ。
 其一 甲ノ事例
 (1) 福島縣會津地方
 三ヶ年蕎麥、粟、大豆ノ順ニ耕作スル事例。

年次	種目	支出		收入	
		数量	金額	数量	金額
第一年	地拵	一	〇・八〇		
	播種	一	〇・六〇		
	收穫	一	〇・八〇	一六	〇・〇八
	種子	一	〇・六〇		
	小種	一	〇・八〇		
第二年	地拵	一	〇・六〇		
	播種	一	〇・六〇		
	收穫	一	〇・八〇	一七〇	〇・〇八
	種子	一	〇・六〇		
	小種	一	〇・八〇		
合計	支出		(二七・四〇)		
	收入		(一八・六四)		
		蕎麥			
		粟			
		大豆			
		合計	(二七・四〇)	(一八・六四)	
		合計	(二七・四〇)	(一八・六四)	

年次	種目	支出		收入	
		数量	金額	数量	金額
第一年	地拵	一	〇・八〇		
	播種	一	〇・六〇		
	收穫	一	〇・八〇	一三〇	一五
	種子	一	〇・六〇		
	小種	一	〇・八〇		
第二年	地拵	一	〇・八〇		
	播種	一	〇・六〇		
	收穫	一	〇・八〇	一七〇	〇・〇八
	種子	一	〇・六〇		
	小種	一	〇・八〇		
合計	支出		(二七・四〇)		
	收入		(一八・六四)		
		蕎麥			
		粟			
		大豆			
		合計	(二七・四〇)	(一八・六四)	
		合計	(二七・四〇)	(一八・六四)	

備考 後價計算ニハ利率三分五厘ヲ用ヒタ以下同ジ。
 蕎麥、粟、稗等ハ凡テ穀數デアル以下同ジ。

(2) 石川縣能美郡白峰村地方
 五ヶ年間稗、粟、大豆、稗、小豆ノ順ニ耕作スル事例。

年次	種目	支出		收入	
		数量	金額	数量	金額
第一年	地拵	一	〇・八〇		
	播種	一	〇・六〇		
	收穫	一	〇・八〇	一五〇	〇・一〇
	種子	一	〇・六〇		
	小種	一	〇・八〇		
第二年	地拵	一	〇・八〇		
	播種	一	〇・六〇		
	收穫	一	〇・八〇	一七〇	〇・〇八
	種子	一	〇・六〇		
	小種	一	〇・八〇		
合計	支出		(二七・四〇)		
	收入		(一八・六四)		
		蕎麥			
		粟			
		大豆			
		合計	(二七・四〇)	(一八・六四)	
		合計	(二七・四〇)	(一八・六四)	

(4) 岩手縣稗貫郡内川目村地方

粟、大豆、粟、蕎麥、稗及蕎麥ノ順序ヲ以テ六ヶ年作付シ、稍進歩セル事例
 從來耕地少ナキ關係上燒畑ヲ行ヒ食糧ノ自給ヲ圖ツテ居ルガ、特ニ南部葉煙草ノ產地トシテ熟畑ニハ專ラ之ヲ作付スル爲普
 通食料ハ燒畑作付ニヨツテ補ツタモノデ、其ノ耕作法モ他地方ニ比シ遙カニ進歩シ播種ハ殆ンド條播トシ三年以後ニハ堆肥、
 過燐酸石灰等ヲ施肥シテ居ル、而シテ六ヶ年耕作廢止後地力ノ恢復ヲ圖ル爲メ必ずまはんのきヲ植栽スル風習ガアル。植栽
 本數ハ一反歩三百乃至三百五十本デ苗木ハ自然生ヲ用フル。
 當地方ニテハ初年作ヲあらく、二年ヲうねはり、三年ヲくなくト稱シテ居ル。

年次	種目		支出		収入			
	種目	數量	單價	金額	種目	數量	單價	金額
初年	地拵(伐)	一畝	〇・七〇	一五・四〇	粟	一畝	〇・一三	一九・五〇
	播種	二升	〇・一三	〇・三三		大豆	一畝	一・〇〇
初年	手入除草(三回)	四畝	〇・七〇	二八・七〇	ハ	キ	一畝	一・〇〇
	收穫	一〇	〇・七〇	七・〇〇				
初年	後小	四畝	〇・一〇	〇・四四	大	豆	一畝	〇・一〇
	收穫	四畝	〇・七〇	二・八〇				
合計				(五四・二三)				(二九・五〇)
合計				六四・四三				三五・〇五
合計				二・八〇				一五・四〇

年次	種目		支出		収入			
年次	種目	數量	單價	金額	種目	數量	單價	金額
第二年	手入、除草(三回)	四畝	〇・七〇	二八・七〇	粟	一畝	〇・一三	一九・五〇
	收穫	一〇	〇・七〇	七・〇〇				
第三年	種肥料(人糞及燐酸)	三斤	〇・一三	〇・三九	蕎	麥	一畝	〇・一三
	播種	四畝	〇・七〇	二・八〇				
第三年	手入、除草及土寄、間引等	三畝	〇・七〇	二・一〇	ハ	キ	一畝	一・〇〇
	收穫	一〇	〇・七〇	七・〇〇				
第三年	後小	三畝	〇・一〇	〇・三〇	大	豆	一畝	〇・一〇
	收穫	三畝	〇・七〇	二・一〇				
合計				(三一・六九)				(一一・〇〇)
合計				三五・一四				一四・四〇
第四年	整地(萌芽刈粟株ヲ掘ル)	一畝	〇・七〇	〇・七〇	蕎	麥	一畝	〇・〇九
	播種	二畝	〇・〇九	一・〇八				
第四年	手入、除草	四畝	〇・七〇	二・八〇	ハ	キ	一畝	一・〇〇
	收穫	一〇	〇・七〇	七・〇〇				
第四年	後小	四畝	〇・一〇	〇・四四	大	豆	一畝	〇・一〇
	收穫	四畝	〇・七〇	二・八〇				
合計				(二四・八八)				(一三・五〇)
合計				一五・九四				一四・四六
第五年	手入、除草(四回)	五畝	〇・〇八	〇・四〇	蕎	麥	一畝	〇・〇八
	播種	二畝	〇・〇八	一・六〇				
第五年	手入、除草	三畝	〇・七〇	二・一〇	ハ	キ	一畝	一・〇〇
	收穫	一〇	〇・七〇	七・〇〇				
第五年	後小	三畝	〇・一〇	〇・三〇	大	豆	一畝	〇・一〇
	收穫	三畝	〇・七〇	二・一〇				
合計				(一三・五〇)				(一三・五〇)
合計				六・四〇				六・四〇

第八年	第七年	第六年	第五年
後小收手施借	後小收手施借	後小收手施借	後小收手施借
穫地價人	穫地價人	穫地價人	穫地價人
計計夫入肥料	計計夫入肥料	計計夫入肥料	計計夫入肥料
柴草 中耕除草 五二〇〇	柴草 中耕除草 五二〇〇	柴草 中耕除草 五二〇〇	柴草 中耕除草 五二〇〇
一〇〇〇 一〇〇〇 〇〇〇	一〇〇〇 一〇〇〇 〇〇〇	一〇〇〇 一〇〇〇 〇〇〇	一〇〇〇 一〇〇〇 〇〇〇
(二二・八五)	(二二・〇〇)	(二二・〇〇)	(二二・〇〇)
三	三	三	三
極生木	極生木	極生木	極生木
三〇〇	四〇〇	七〇〇	一、〇〇〇
〇〇六	〇〇六	〇〇六	〇〇六
(一八・〇〇)	(二四・〇〇)	(四二・〇〇)	(六〇・〇〇)
一九・二八	二六・六二	四八・三三	七一・二八

第四次	第三次	第二年	初年	年次	種目
後小收手施借	後小收手施借	後小手施借	後小手施植		支
穫地價人	穫地價人	價地	價付		目
計計夫入肥料	計計夫入肥料	計計入肥料	計計入肥費		出
柴草 中耕除草 五二〇〇	柴草 中耕除草 五二〇〇	柴草 中耕除草 二〇〇	柴草 中耕除草 二〇〇		數量
一〇〇〇 一〇〇〇 〇〇〇	一〇〇〇 一〇〇〇 〇〇〇	一〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇	一〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇		單價
(二二・四五)	(二二・〇〇)	(七・〇〇)	(四・五六)		金額
三	三				種目
極生木	極生木				入
五〇〇	三〇〇				數量
〇〇六	〇〇六				單價
(三〇・〇〇)	(一八・〇〇)				金額
三六・八七	三三・九〇				部

五年	四年	三年	二年	初年
後小運切手 撤取 費蒸 及シ 雜剝 計計費皮入	後小運切手 撤取 費蒸 及シ 雜剝 計計費皮入	後小運切手 撤取 費蒸 及シ 雜剝 計計費皮入	後小運切手 撤取 費蒸 及シ 雜剝 計計費皮入	後小手三三開 極極盤 植苗木(中耕) 付人代
二九三	二九三	二九三	二九三	七、〇〇〇 一、二〇〇 本十本 付
〇・七〇〇 〇・七〇〇 〇・七〇〇	〇・七〇〇 〇・七〇〇 〇・七〇〇	〇・七〇〇 〇・七〇〇 〇・七〇〇	〇・七〇〇 〇・七〇〇 〇・七〇〇	〇・七〇〇 〇・七〇〇 一・〇〇〇
(九・八〇) 一・四〇 六・三〇 二・一〇 一・二六四	(九・八〇) 一・四〇 六・三〇 二・一〇 一・二〇四	(九・八〇) 一・四〇 六・三〇 二・一〇 一・二四七	(九・八〇) 一・四〇 六・三〇 二・一〇 一・二〇一	(二六・六〇) 二・一〇 四・九〇 七・〇〇 八・四〇 三六・二六
三極黑皮 (乾)	三極黑皮 (乾)	三極黑皮 (乾)	三極黑皮 (乾)	
二・七	三	三	三	
四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇	九二付
(一〇・八〇) 一・〇・八〇 一一・八〇 一・二八三	(一一・〇〇) 一・四・七五 一二・〇〇 一・二〇〇	(一一・〇〇) 一・五・二六 一二・〇〇 一・二〇〇	(一一・〇〇) 一・五・八〇 一二・〇〇 一・二〇〇	

(7) 愛媛縣上浮穴郡仕七川村地方
十ヶ年三極栽培事例
三極栽培ヲ廢止シテ十四、五年ヲ經過セル林木ヲ伐リ拂フテ平焼トシ、其跡ヲ開墾シテ三極ノ作付ヲナスモノデアル。

年次	種目	支出	收入
第十年	借地 施肥 手入 收穫 小計	肥料 入 夫計 五二	三極生木 一〇〇
第九年	借地 施肥 手入 收穫 小計	肥料 入 夫計 五二 中耕除草 一五〇 柴草 一〇〇	三極生木 二〇〇
第十年	借地 施肥 手入 收穫 小計	肥料 入 夫計 五二	三極生木 一〇〇
第九年	借地 施肥 手入 收穫 小計	肥料 入 夫計 五二 中耕除草 一五〇 柴草 一〇〇	三極生木 二〇〇
合計	借地 施肥 手入 收穫 小計	肥料 入 夫計 五二	三極生木 一〇〇
合計	借地 施肥 手入 收穫 小計	肥料 入 夫計 五二 中耕除草 一五〇 柴草 一〇〇	三極生木 二〇〇
金額	金額	金額	金額
四・二〇	四・二〇	四・二〇	四・二〇
〇・七〇	〇・七〇	〇・七〇	〇・七〇
(一三・五〇) 一・六〇 五・〇〇 二・〇〇 九・〇〇	(一三・五〇) 一・六〇 五・〇〇 二・〇〇 九・〇〇	(一三・五〇) 一・六〇 五・〇〇 二・〇〇 九・〇〇	(一三・五〇) 一・六〇 五・〇〇 二・〇〇 九・〇〇
種目	種目	種目	種目
借地 施肥 手入 收穫 小計	借地 施肥 手入 收穫 小計	借地 施肥 手入 收穫 小計	借地 施肥 手入 收穫 小計
數量	數量	數量	數量
數量	數量	數量	數量
單價	單價	單價	單價
單價	單價	單價	單價
金額	金額	金額	金額
金額	金額	金額	金額

年次	種目		支	出	數量	單價	金額	種目	入	數量	單價	金額
	種	目										
五年目	手	公	後	手	二	〇・八〇	(一・七六六)					
四年目	手	公	後	手	二	〇・八〇	(一・七六六)	玉	劉	八〇斤	〇・一〇	(八・〇〇)
三年目	手	公	後	手	三	〇・八〇	(二・四四)	玉	劉	八〇斤	〇・一〇	(八・〇〇)
二年目	手	公	後	手	三	〇・八〇	(二・四四)	玉	劉	八〇斤	〇・一〇	(八・〇〇)
一年目	手	公	後	手	三	〇・八〇	(二・四四)	玉	劉	八〇斤	〇・一〇	(八・〇〇)
合計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

年次	種目		支	出	數量	單價	金額	種目	入	數量	單價	金額
	種	目										
六年目	手	公	後	手	二	〇・八〇	(一・六四〇)					
七年目	手	公	後	手	二	〇・八〇	(一・六四〇)					
合計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

其二乙ノ事例
(1) 栃木縣芳賀郡須藤村地方

本地方ニ於テハ専ラ櫟植付ノ地拵的ニ燒畑ヲ行フモノデ、雜木林伐採燒拂ヒ伐根ハ掘取リテ地拵ヲナシ、然ル後陸稻ヲ條播スル、而シテ三ヶ年間耕作セル後櫟苗ノ植付ヲナスモノデ、反當三百本程度デアル。

年次	種目		支	出	數量	單價	金額	種目	入	數量	單價	金額
	種	目										
初年	地拵	播種施肥	人	夫	一二人	〇・七〇	(八・四〇)	陸稻	(モミ)	一二〇斤	〇・二三	(二七・六〇)
合計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

年次	種目	支出		収入	
		数量	金額	数量	金額
第三年	播種人	三	〇・八〇	小豆	五〇斤
	種子代	二	〇・二〇		〇・二〇
合	種目				
	計	四	〇・八〇		一〇・〇〇
合計			(二九・四〇)		(四六・〇〇)
			三〇・四七		四八・一一

(四) 特殊ナル焼畑事例ト其方法

(1) 東京府下八丈島地方

本地方ニ於ケル焼畑ハ他府縣ニ見ラレザル特殊ノモノデ既ニ切替期ニ達セル十二、三年生ノやしやぶし林ヲ伐採シテ之ヲ燒キ拂ヒ、灰ヲ搔均ラシテ耕シタル後里芋又ハ甘藷ヲ作ルノデアアル、而シテ之ト同時ニ所謂八丈秣ノ原料タルかやヲ植付ケ、尙ホ同時ニやしやぶしノ植栽ヲナスノデ主目的ハかやト薪炭材ヲ得ントスルモノデアアル。而シ時ニやしやぶしハ農作廢止後二年目ニ植付クルモノモアルト云フ。農作物トシテ里芋ハ全ク其ノ副産物デ作付年數ハ普通一、二年、三年間行フハ最モ肥沃ノ土地ニ限ラル。やしやぶしハ反當三百本位ノ割合ニ植エ、更ニ點々さかきヤ、桑モ發生スルニヨリ之等ノ利用モ多イ、尙植栽セルかやハ五、六ケ年間刈リ取ル事ガ出來ルノデアアル。
今同島三根村ニ於ケル收支ヲ掲グレバ次ノ通。

年次	種目	支出		収入	
		数量	金額	数量	金額
第一年	地拵(伐採人)	三五人	一・〇〇	芋	三五〇斤
	種子	五	〇・一五		〇・一〇
合	種目				
	計	五	〇・八〇		三五・〇〇
合計			(一六・六五)		(三五・〇〇)
			一七・二三		三六・二三
第二年	種子	一五	〇・一五	芋	二〇〇斤
	手入代	三	〇・八〇		〇・一〇
合	種目				
	計	三	〇・八〇		二二・〇〇
合計			(二二・七〇)		(五五・〇〇)
			二四・二八		五六・二三

(2) 山梨縣南巨摩郡地方

南巨摩郡地方ノ焼畑造林即混農林業ハモト萬澤村附近ヲ中心トシテ漸次其近隣ニ及ボシ發達シタモノデ、平坦地ニ乏シク農耕地ニ適スル土地甚ダ狭小ナリシ結果、古クヨリ山間峽間ノ山野ヲ燒キ拓キテ食料ノ補給ヲシテ居タノデアアル。而シテ焼畑農業ヲ營ミ地力漸ク消耗スルニ至レバ之ヲ放棄シテ自然ノ恢復ニ委セタノデアツタ、而シ人智漸ク進ムニ從ヒ其放棄地ニやまはんのきノ如キ生長速カナルモノヲ植栽シテ地力ノ恢復ヲ速カナラシメ、以テ切替期ノ短縮ヲ圖ルニ至ツタ、其後三椏ノ栽培傳ハリ、焼畑ニ於ケル雜穀芋類ノ漸ク減收スルヤ、更ニ三椏ヲ栽培シ同時ニ其間ニ疎クやまはんのきを植付ケ、其落葉ヲ以テ三

極ノ肥料トシ、三極ノ收穫衰フヤやまはんのきノ純林トシタノデアツタ。然ルニ今ヨリ約二百年前實曆ノ頃ニ至リやまはんのきニ代フルニ一層有利ナル杉、扁柏ノ植栽ヲ試ミテヨリ、此法漸次發達シテ來タノデアアル。而シ其長期ナルヲ忌ミ之ヲ伐採シテ又盛ニ三極ヲ栽培スル様ニナツタ。

其後經濟界ノ狀勢漸ク複雑トナリ、勞働賃金ノ昂騰スルヤ、地主ハ三極畑ヲ小作人ニ貸與スルモ收利小ナク之ヲ自作セントスルモ勞働賃高クシテ收利多カラザル爲再ビ杉、扁柏ヲ造林スルモノ多クナツタノデアアル。其後養蠶業ノ盛ニ行ハル、ニ至リテ桑ノ栽培多ク加フルニ三極ノ市價低落シ、一面木材需要ノ増加ニツレ三極栽培ハ著シク減ジテ來タ。ケレドモ森林伐採ニ三ヶ年内ハ焼畑作ニヨリテ地拵兼用ノ蕎麥里芋等ノ栽培ヲ行ヒ同時ニ三極ヲ植エ後、杉、扁柏林ノ造成ヲナスモノモ少クナイ。

何レ共本地方ハ杉、扁柏ノ造林ヲナスト共ニ三極ヲ栽培シ、併セテやまはんのきヲ植栽スル如キハ他地方ニ見ラレザル方法デアアル。

作付ノ方法

秋季又ハ春季森林伐採後地主ハ之ヲ小作者ニ貸與シ(中産者ニシテ勞働力充分ナルモノハ自作)、其後數年間ハ普通小作料ヲ徵收セズ、其代價トシテ農作物仕付ノ爲土地ヲ使用セシムルノデアアル。

伐採後第一年月ノ作物ハ殆ンド蕎麥ニ限ラレテ居ル、第二年月ニハ土地ノ狀況ニ應ジ粟、稗又ハ陸稻ヲ作ル、陸稻ハ肥沃地ヲ選ブモ時ニ肥料トシテ過磷酸石灰ヲ施ス。第三年月ニハ里芋ヲ作り、其翌年ニ至ツテ三極ヲ植栽スルノデ反當三千本ノ割ヲ以テ列植トシテ居ル。即チ列間苗間共二尺内外トシ傾斜ノ方向ニ直角ニ列植スルノデ、其列間ヲ輕ク耕ヤシ除草ハ初秋一回ガ普通、第二年月二回、第三年ニ技條全部ヲ刈取ル、第四年月ハ早春耕シテ秋一回除草、第五年二回除草、第六年冬第二回ノ刈取

ヲナスモノデ、第二回以降ハ造林木生長繁茂シ三極ノ收穫減少スル外、菌類ノ爲第二回收穫前後ニ於テ枯凋スルニヨリ之ヲ地主ニ返還スルガ常デアアル。

杉、扁柏ノ植栽ハ蕎麥栽培ノ翌年即チ伐採後第二年月(秋伐ノ時ハ第三年月)ノ春、粟、稗、陸稻ト同時ニ植付クルガ普通デ、地味特ニ良好ナル場合ニ尙一年遅レテ第二回ノ陸稻ト共ニ植栽セラル、事アルモ餘リ多クハナイ。

植栽本數ハ普通一反歩二百五十乃至三百本デ、三年生ノ良苗ヲ用ヒ地主ノ負擔トスル、植付ハ當初ノ約束ニヨリ異ナルモ通常地主側ニテ植付ヲナシ小作人ハ之ヲ助成保護スルニ止マリ、昔日ノ如ク小作人ニ於テ全部植付ヲ行フ事ナク、且ツ地主モ亦植林ニ對スル智識ノ進ムニ連レ、之ヲ小作人ニ委スノ不利ナルヲ覺リ自ラ充分注意シテ植栽スル様ニナツテ來タ。

(3) 岐阜縣飛騨地方

岐阜縣大野郡丹生川村及吉城郡河合村地方ハ所謂飛騨桐ノ產地トシテ知ラレタル所デ、焼畑ヲ行ヒ其間ニ桐、やまはんのきヲ植栽シ優良ナル桐材ヲ産出シテ居ル。本地方ハ土地狭少ニシテ田畑少ナキ爲古クヨリ焼畑行ハレ食料ノ自給ヲ圖ルト共ニ桐やまはんのきノ混植ヲモ行ツテ居ルノデ、彼ノ岩手縣下閉伊郡、稗貫郡地方ニ行ハル、南部桐栽培ト共ニ東西ニ於ケル特殊ノモノト言ヘル。

今次ニ其ノ施業法ヲ記述スル。

地味良好ニシテ日當リヨキ砂質壤土地(傾斜十度乃至四十度)ヲ選ビ、晩秋雜木及荆棘類ヲ伐リ拂ヒ、其ノ優良ニシテ薪材ニ適スルモノハ之ヲ利用シ、残りハ其儘放置シテ翌春四月頃ニ至ツテ焼却スルノデアアル。而シテ其地拵ヤ收穫ハ立木ノ如何地況其ノ他ニヨツテ異ナルモノデ一反歩二十人内外ノ人夫ヲ要スル。即チ伐採刈拂ニ七人、火入ニ五人開墾ニ八人ヲ要スルノデアアル。斯クテ焼畑ノ整地終レバ五月ニ至リ稗苗ヲ三本宛一尺置ニ移植シ(田ニ於テ播種シ五六寸ニ生長セルモノ)十一月收穫ス

ルガ、其量反當一石六斗内外、第二年目ニハ大豆又ハ小豆ヲ作り七、八斗ノ收穫ガアリ第三年目ニ蕎麥二石内外、第四年ニ粟ヲ作ツテ八斗位ノ收穫ガアル、普通二、三年デ四年作付スルハ少ナイ。而シテ桐ハ第二年目若シクハ三年目ニ於テ反當四、五十本ノ割ニ植栽スルノデアルガ、同時ニやまはんのき苗二尺内外ノモノヲ其間ニ植ユル。間隔ハ六尺ニ九尺位ノ割合デ斯クテ桐及やまはんのきノ混播林トナスモノデアアル。やまはんのきハ天然一年生苗木ヲ用ヒ、之ノ植栽ハ其落葉及根ニアル根瘤バクテリアノ作用ニヨツテ土地ヲ肥沃ナラシムルト言ハル、ニヨルモノデ、必ズ之ヲ植栽シ若シやまはんのき苗ノ不足セルトキハみづきヲ代用スル事モアル。第一年目ヨリ桐ヲ植付クルコトアルモ作物ノ收穫減少スルニヨリ普通二年目ヨリ行フモノガ多イ。

桐及やまはんのき皆伐後ハ再ビ燒畑ヲ繰リ返シ、二、三年間作付スルノデアアルガ、第二年目ニハ切株ヨリ自然ニ萌芽セル桐ヲ育成スルト共ニやまはんのきヲ植栽スルコトハ前述ノ通りデアアル。やまはんのきト混成セル桐ハ八年乃至十年ニシテ色澤良好トナリ生育大ニ助長セラル、桐ハ普通十六、七年生ニテ伐採スルガ稀ニ二十年生ノモノモアル、而シテ其伐期ニ於テ桐樹三十五、六本存セバ可良デアルト言ハル、。斯ク燒畑ニ造林セル桐ハ普通畑地、畦畔其他ニ植栽セルモノニ比シ生長稍劣ルモ材質緻密ニシテ色澤優美、秋材部太クシテ均一ナル爲遙カニ高價ニ取引サレ、又やまはんのきハ何レノ農家ニテモ薪材トシテ喜ビ利用シテ居ル。

(附)

岩手縣下閉伊地方ニ於テモ燒畑第一年目ニ農作ヲナスト同時ニ桐ノ植付ヲナシ、其後四、五年間農作ヲナスガ之ノ桐ハ一反歩普通三、四十本ノ割ニ植栽シ、二十年ヲ以テ伐採シテ居ル、之ヲ俗ニ山桐ト稱ヘ、所謂南部桐ノ一種デアアル。而シテ往年ハ之ト同時ニやまはんのきノ植栽盛ンデアツタガ、近年之ガ植付ヲナスモノ漸ク減少シテ來タ。

(4) 德島縣海部郡木頭地方

最近木頭林業トシテ知ラル、木頭トハ、德島縣西南部那賀川ノ上流及其支流タル澤谷川流域地方デ、海部郡木頭村、上木頭村、中木頭村、那賀郡澤谷村、坂州木頭村及宮濱村ノ内古屋川ノ流域(元下木頭村)ノ總稱デ其面積三十四方里ニ及ビ、海部郡七、那賀郡三ノ割合デアアル、而シ之ヲ林業ノ發達程度及林野面積等ヨリ比較スレバ海部木頭ハ、遙カニ那賀木頭ヲ凌駕スルニヨリ海部木頭ヲ以テ狹義ノ木頭トモ云ヘル。本地方ハ德島縣下ニ於ケル山岳地方デ彼ノ劍山ヲ繞リ古クヨリ最モ盛ニ燒畑ヲ行ヒ、自家用食料ノ生産目的トシタモノデ、徳川末期ヨリ明治初年ニ涉リ燒畑ヲ行フモノ年ト共ニ増加シ來タノデアツタ。而シテ古ク良材ヲ出シタルハ凡テ天然林デ之ヨリ擇伐セルハ水運可能ノ樺、梅ノ類ニ過ギナカツタガ、明治三十五年以降、潤葉樹ノ利用セラル、モノ漸ク多ク、收支相償フニ至ツテ造林ヲ行フモノ次第ニ増加シ、殊ニ日露戰役以後林産物ノ價値昂騰スルニ至ツテ、村民ノ收入漸ク高マリ、又伐木、運材及造林等ニ従事スルモノ増加スルニツレ、燒畑ヲ行フモノ年ト共ニ減ジ、現今ニ於テハ全然燒畑ノミニヨリ生活スルモノ殆ンド無キニ至ツタ。而シ從來ノ慣習ト且ツ杉、扁柏植栽前ニ於ケル地拵的燒畑ハ林木ノ生長ヲ助ケ、一面食料ヲ得ラル、便アルヲ以テ數年間燒畑ヲ行ヒ然ル後造林シテ居ルノデアアル。即チ燒畑ハ古ク伐畑又ハ伐畑山ト稱シ雜木林ヲ伐採燒却シテ二、三年間耕作ヲ施シ、之ヲ放置シテ十五年乃至二十年ヲ經過セバ更ニ之ヲ伐採開墾シタモノデアツタ。斯ク反覆施行スルガ故ニ耕作放棄ノ前年杉苗ヲ植付爾後二、三回ノ下刈ニヨリ次期ノ耕作期ニハ、稗種子一斗蒔付地ヨリ五萬才内外ノ杉材ヲ伐採スル事ガ出來タノデアアル、而シテ更ニ燒畑ヲ施スニ於テハ從來無收穫ナリシ休閑地ヲ利用シテ莫大ナル利益ヲ得遂ニ主副顛倒スル利益ヲ見ルニ至ツタ。

爾來地主ハ加地子減額ノ代償トシテ小作人ニ杉苗ヲ植付ケシメ、廣大ナル造林地ヲ得タノデアアル。又土地所有者ニシテ一家經濟上林野ヲ賣却スル場合、普通燒畑ヨリモ植付アルモノ遙カニ高價ニ取引サレ、一面林業ノ志アル人士ハ自ら造林費ヲ投ズ

ルヨリ比較的低廉ナル造林地ヲ得ル事希望スル者多キ關係上、焼畑跡地ニ造林スルノ有利ナルヲ知ルニ至ツテ所謂焼畑造林ノ隆盛ヲ來タシクモノデアル。而シ又一説ニハ林野火入取締嚴重トナリタル結果、造林地拵ノ目的ヲ以テ火入許可ヲ得タル場合ハ必ズ植付ヲセネバナラヌモノデアルガ、其後全村開墾制限地ニ編入セラレ焼畑開墾ヲ爲サントスルトキ先ヅ開墾ノ許可ヲ得、然ル後火入ノ許可ヲ得ネバナラヌ様ニナツタノデアル。然ルニ造林地拵ノ目的ヲ以テ火入ノ許可ヲ得ントスル場合駐在警官ノ許可ノミデ、序ニ焼畑モ爲シ得ルト共ニ必ズ造林モセネバナラズ、而カモ常ニ警官ノ巡視アリ取締嚴重ナル爲自然焼畑後造林ヲナスニ至ツタトモ言ハレテ居ル。

其ノ何レタルトヲ問ハズ今日木頭地方ノ人工造林ノ大部分ハ地目畑即焼畑ニ植栽セルモノデ、全ク焼畑ニヨツテ起ツタモノトモ云ヘルガ、又將來焼畑ヲ改良シテ優良林業地トナスノ好参考トモ云ヘヤウ。

今當地方ノ焼畑造林ニ就テ詳記シヤウ。

イ、焼畑ノ方法

本地方ノ地拵ハ焼畑デ四月頃ヨリ盛夏ノ候ノ間ニ雜木林ヲ伐採シテ乾燥セシメタル後、之ヲ焼拂ヒ蕎麥ヲ作ルモノト、秋季伐採シテ其儘林内ニ放置シ、翌春四月遅クモ五月頃焼拂ヒテ稗ヲ蒔クモノトアル。而シテ盛夏伐採セルモノハ二週間位ノ乾燥デ十分焼キ拂フ事ガ出來ル。何レノ期間ニ焼畑ヲナスモ「コナシ」ナルモノヲ行フ、即チ伐倒シタル樹木ノ枝ヲ切り落シ焼拂ニ便ナラシムルモノデ、此ノ作業終レバ適當ナル時季ヲ選ビテ焼拂フガ之ヲ「山焼」ト云ツテ居ル。而シテ山焼ヲ開始セントスルトキハ、其地域ノ周圍ヲ一定ノ幅ニ防火線ヲ造リ、日没前山頂部ヨリ點火シテ山麓ニ向ツテ焼却スルノデアル。此ノ場合防火線上ニ看視人アリテ常ニ火勢ノ進ム方向ニ防火線上ノ表土ヲ掘り返シツ、進ムモノデ、面積ノ大小ニヨツテ異ナルガ普通十四、五人位デ行ヒ之ヲ終レバ更ニ焼ケ残りタルモノヲ寄せ焼キトナシ、同時ニ「ネキ」ト稱スルモノヲ造リテ土砂止ノ設備ヲ

ナスノデアル、斯クシテ出來上リタル焼畑地ヲ普通「コナ」ト稱シテ居ル。春季焼畑トナシタルモノハ稗ヲ蒔キ同時ニ樹苗ノ植栽ヲ始メ、遅クモ梅雨期後迄ニ之ヲ終リ、又夏季焼畑トセル場合ハ蕎麥ヲ蒔キ、翌春ニ至ツテ樹苗ノ植付ヲナスモノデア。焼畑ニハ前述ノ如ク主ニ稗、蕎麥ヲ作ルガ、他ニ粟、甘藷、大豆、小豆等ヲモ收穫シ、時ニ三椏、茶、楮等ヲ植栽スルコトアルモ之等ハ地力ヲ減退セシメ林木ノ生長ヲ阻害スル故、特殊ノ場所ニ於テノミ行ハル、ニ過ギナイ。而シテ以上ノ農作物ハ植栽セル樹苗ノ生長繁茂シテ、遂ニ收穫不能ニ至ル迄行フヲ原則トシ、從ツテ樹苗ノ植栽ハ極端ニ疎植デ一反歩百本程度デア。而シ最近ハ木材價格ノ昂騰ト運搬ノ便モアリ二百本内外ノ植付トナツテ來タ。

焼畑作ヲ爲シテ造林スルトキハ農作物ヲ收穫スル外、病蟲害被害、其ノ他雜草、蔓類ノ繁茂少ナク、且ツ之ヲ行ハザル林地ノ生育ニ比シ良好ナリトテ、第二期ノ造林ニ於テ地主ハ、造林費ノ輕減ト相俟ツテ伐採跡地ニモ行ツテ居ル。

樹苗植栽ニ當リ小作人及地主間ニ種々ノ契約ヲナシテ居ル、即交通比較的便ニシテ人家ニ近キ林地ノ焼畑作ハ地主ハ單ニ林地ト苗木ヲ提供スルニ止マリ、小作人ハ土地使用ノ償トシテ苗木ノ運搬及植栽ヲ行フモノデ、斯カル林地ノ作付ハ一回限りヲ普通トスル、而シ特ニ地味良好ニシテ農作物ノ收穫多キトキハ二回ノ作付ヲナスコトモアル、斯カルトキ小作人ハ之ガ代償トシテ第一回ノ下刈ヲナスモノデアル。

補植ノ場合モ新植同様地主ハ苗木ヲ負擔シ、小作人ハ樹苗ノ運搬並植栽ヲ行フノデアル。

又交通不便ニシテ遠隔ノ地ノ造林ハ多クノ場合焼畑ニ依リ生計ヲ立ツルモノ所謂專業者ノ手ニ委ヌルモノデ、相當ノ面積ヲ有シ長期間ニ亘リテ焼畑ヲナシ得ルト同時ニ、林地ヨリ相當金品ニ替ヘ得ル產物アルヲ以テ之ヲ條件トシテ居ル。之ノ產物トハ椎茸ノ原木及「さか」ト稱シ杉ノ根株ヨリ採取スル樹脂ノ一種デ、此等ノ多少ニヨリ契約ヲ異ニシテ居ル。即チ先山（焼畑ヲナス爲メ雜木伐採）及焼拂ノ費用ヲ地主ニ於テ補助スルヤ、樹苗ハ山元ニ於テ支給スルヤ否ヤ、一本當ノ植栽賃金、作付年

限、植栽年限及作業終了後ノ第一回ノ手人保護等ニ就キ契約ヲナスノデ、大正八、九年以降ノ好況時代ニアリテハ、植栽賃金ノ如キ一本當五錢以上支出シタ林主モアツタ、而シ最近ハ遠隔ノ度及農作物收穫ノ程度並前速ノ產物ノ如何ニヨリテ一定セザルモ普通五厘乃至一錢ヲ支給シテ居ル様デアル。

ロ、收支關係(一反歩當)

今海部郡木頭村地方ノモノヲ掲記スル。

年次	種目		支出		收入	
	種目	數量	單價	金額	數量	單價
初年	地拵(伐採人夫)	三人	一・〇〇	三・〇〇		
	後小地拵			(三・〇〇)		
第二年	地拵(小切(乘山)拂)	二・五	一・〇〇	四・〇〇		
	種子	一・五	〇・二三	〇・二三		
	播種	一・五	〇・八〇	一・二〇		
	手入(女)	一・五	〇・六〇	〇・九〇		
	收穫	一・五	〇・八〇	六・四〇		
	木屋及管理		〇・八〇	一・二〇		
	後小地拵			(一・三・九三)		
合計			(一四・四二)			
小粟	〇・六	〇・二〇	〇・一五			
豆						
合計				(一・五〇)		

年次	種目		支出		收入	
	種目	數量	單價	金額	數量	單價
第三年	大豆	〇・五	〇・二〇	〇・一〇		
	播種及手入	一・五	〇・八〇	一・二〇		
收穫	三・〇	〇・八〇	三・八五			
合計				(一〇・七八)		
合計				(一五・五二)		

次回以後作付面積ハ當初ノ五割以内デアル

以上ノ如キ燒畑造林ハ徳島藩時代ニ於テハ御林内ニ燒畑ヲ行フ場合其願出ヲナサシメ、冥加銀納並畑跡植栽ヲナサシメタノデアルガ、寶曆八年戊寅正月、木頭八ヶ所御林内伐畑作付願ノ件ヲ記近シ參考ニ供シヤウ。

一、伐畑百五枚

但陰谷大栖小栖宇坪登リ尾權太與原長者ケ平八ヶ所御林内之内ニ有之伐畑

右冥加銀札三百十五匁

(中略)

右八ヶ所御林之内、山、三合目、裾、又ハ谷間、眞木渡リ不取申場所ニテ給物相成品御掘セ被下

右掘跡へ、稗、粟、小豆畠一枚、三ヶ年三作宛作付被仰付被下候ハハ冥加銀札、畠一枚ニ付三匁宛指上、作跡へ眞木小苗百五十本宛植付可申旨奉願上候所、御慈悲之願之通被爲仰付難有奉存候、然上ハ御大畑成御林之様、第一火之用心、並聊ニテ御運上成申情之雜木有之候ハハ燒殘可申候、諸事不埒ケ間敷義ハ、作人一統仕間敷候、萬一御作法相背申候ハハ、如何分共可被仰付候、尤冥加銀來卯辰兩年一ヶ年ニ百六十目六分五厘宛無滯指上、眞木小苗之義ハ、御林御番人中時々御見分請植付可申候

右切畑割符之義、所御役人衆中御立逢之上、御林之義モ村當リ仕、左之通本家小家夫々割符仕所實正ニ御座候
右切畑分配之義ニ付、此後一統申分毛頭違亂無御座候、依而配分面付帳指上申所如件

(下略)

斯クノ如ク堅イ約束ノモノト造林シクモノデ、木頭地方焼畑林業發達ノ狀況モ窺知スルコトガ出來ル。

第三、燒畑及切替畑ノ治水上ニ及ボス影響

現在本邦各地ニ於テ行ハル、燒畑作付ハ、何レモ交通不便ナル奥地ニシテ急峽ナル所ニ多ク山岳ヲ荒廢シテ水源ヲ涸ラシ、土砂ヲ流出シテ洪水ノ原因ヲナス等國土保安上ニ及ボス惡影響甚ダ大ナルモノガアル、殊ニ河川沿岸ノ直上歩行モ困難ナル絶嶮地ヲ掘起シ、土砂ヲ流出スル所多キヲ見ル如ク洵ニ森林治水上有害ナルモノデアル、ノミナラズ己人ノ採算上ニモ面白クナイモノガ多イ。即チ前述各府縣ニ於ケル燒畑事例ノ收支ニ就テ見ルモ收利少ナク、之等ノ多クハ勞銀ヲ採算外ニ置イテ行フモノデ、殊ニ甲ノ場合ニ於テ其甚シキハ一日ノ勞賃ヨク十四五錢ニ當ラザル地方モ少クナイノデアル、徒ニ遊ビ暮サンヨリ僅少ナリトモ食料ヲ得ルニ如カズト爲ス所多キガ故ニ、他ニ林業勞働其他有利ノ勞働賃得ラル、途アラバ直ニ燒畑ヲ廢シテ之ニ轉向シツ、アルモノデアル、サレバ治水上ハ勿論山村更生ニモ山間ニ於テハ林業勞働、其他就勞ノ機會ヲ多カラシムルコトガ最も緊要デアル。

次ニ造林地ノ地拵ノ爲メニ行フ燒畑ハ、多クハ作付期間短カク、且ツ農作ト同時ニ造林ヲ行フモノ多キヲ以テ、全然農作物ノ收穫ノミヲ目的トシ至ツテ粗放的ニ行フ奥山地方ノ燒畑ニ比シ、治水上ニ及ボス影響ハ輕減スル様デアル。而シテ所謂燒畑造林ハ造林地ノ彎境ニヨリ異ナルガ大體次ノ如キ利害ガアル。

A 利益ナル點

- 一、苗木植付ニ地拵ヲ要シナイ。
 - 二、作業容易デアル。
 - 三、枯損少ナク補植數ヲ減ズル。
 - 四、下刈ヲ要シナイ。
 - 五、植付當時ヨリ林地ヲ覆ヒ乾燥セシメナイ。
 - 六、耕作スルニヨリ林木ノ生育良好デアル。
- 殊ニ一乃至四ノ利點ハ著シク造林費ヲ輕減スルモノデ、静岡縣地方ノ例ニヨツテ見ルニ、地拵ヨリ下刈マデニ要スル經費ハ普通造林費ノ五分ノ一ニテ十分デアルト言ツテ居ル。

B 不利益ナル點

- 一、前作及間作物ノ爲養分ヲ吸收サル。
 - 二、間作ヲナス爲植付距離大デ本數ヲ減ジ、梢殺ノ樹トナル。
 - 三、植付後十年乃至十二、三年頃一時其生育ガ衰ヘルコトガアル。
 - 四、間作ノ際林木ノ根部ヲ害シ或ハ彎曲スルコトガ多イ。
 - 五、急斜地ハ土地ヲ崩壞セシメ治水上被害ヲ及ボス。
 - 六、火入ノ時往々ニシテ森林火災ヲ起ス憂ガアル。
- 斯クノ如ク造林ヲ主トスル場合ニ於テモ其利害相伴フモノデアルガ、農作本位而カモ粗放的耕作ハ殊ニ林地ヲ荒廢セシムル

事甚シイモノデアル。サレバ從來森林ノ開墾ニ就テハ之ガ取締ヲ嚴ニシ、特ニ森林治水上重要ナル箇所ハ之ガ開墾ヲ禁止又ハ制限ヲ加ヘテ居ル。而カモ制限地ニ於テハ之ガ開墾ヲサントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ得セシムルノデ焼畑及切替畑ノ如ク土地ノ形質ヲ變更スルモノモ凡テ開墾トシテ許可ヲ得ネバナラヌ、而シ現在奥地ノ山狭ニ於テハ地目焼畑又ハ切替畑ト稱スルモノモ既ニ森林狀ヲ呈スルモノ多ク、又地目山林ト云フモ焼畑切替畑トナレル所モ尠クナイノデアル。前者ハ再ビ焼畑ヲナスニ當リテハ凡テ現狀主義ニ則リ一々許可ヲ得ベキモノナルモ手數ヲ省ク爲、其儘トシテ今日ニ至レルモノ多イ、之レ切替期毎ニ或ハ焼畑トシ更ニ山林トスル如キ地目變換手續ノ容易ナラザル爲放置セルモノデ、税額ノ多少ノ差異ハ論ズル所デハナイノデアル。又後者ノ如キハ地目變換手續ノ手數ヲ省クニモヨルガ、無關心ニ無願開墾ヲ敢テセル所モ尠クナイデアラウ、依ツテ斯クノ如キモノハ治水上ノ立場ヨリ十分取締ヲ嚴ニセネスナラヌ。

尙ホ焼畑ヲ行ヒタル結果土地ノ崩壊ヲ來クシテ、甚シキ被害ヲ及ボシタル例少クナイガ、今次ニ其數例ヲ掲ゲヤウ。

(1) 石川縣石川郡河内村宇内尾奥地

a 地勢及面積

山腹傾斜二十五度、埴質壤土、六十町歩

b 作付年數及作物ノ種類

作付年數三年、蕎麥、粟、小豆、稗等ヲ撒播セルモノ

c 被害狀況

右焼畑作業地附近一帯ハ雜草木散生地デ雨水ノ浸潤保留スルコトナク、數日間ノ降雨ニヨリ、表土ヲ流出シテ濁流トナリ、山麓部ノ杉林ヲ轉倒セシメ溪流ニ架シタル橋梁ヲ破壊シタ。本被害時期ハ昭和八年七月下旬デアル。

(2) 福井縣大野郡五箇村上打波

a 地勢及面積

東南方ニ二十五度内外ノ傾斜ヲ以テ低下シ、地質ハ古生層、基岩ハ石英粗面岩ニシテ表土ハ之ヲ母岩トセル砂質壤土ニ礫ヲ混ジタルモノ、結合狀態比較的輕鬆ニシテ地味肥沃。面積五町歩。

b 作付年數及作物ノ種類

作付年數四年、稗、粟、大豆、小豆ノ順ニ之ヲ作ル。

c 被害狀況

本箇所ハ十年前ニ焼畑ヲ行ヒテ其跡地ヲ放置セル爲荒廢林地トナリ、土壤結合比較的輕鬆ナルニヨリ所々ニ崩壊地ヲ生ジ、尙冬季降雪多キトキハ積雪ヲ誘起シ、山麓ヲ通ズル道路ニ落チテ交通上ニ及ボス危險常ニ絶エザル狀況デアル。

(3) 靜岡縣安倍郡井川村大字上坂本字出山

a 地勢及面積

大井川ノ左岸ニ位シ西面セル傾斜三十度地質ハ砂質壤土、面積五町歩。

b 作付年數及作物ノ種類

作付年數三年、昭和八年春季杉人工林ヲ伐採シテ直ニ焼畑作業ヲ行ヒ、初年ニ稗ヲ條播トシ二年モ同様稗ヲ作り、三年目即現在ハ大豆及小豆粟等ヲ作ル。

c 被害狀況

本ヶ所ハ地勢急峻ナル爲上方山林ニ降下セル雨水ハ、直ニ地表ヲ流下シ、殊ニ比較的大面積ノ作業ヲ行ヒタル結果、土

地ノ裸出ハ益々之ガ流出ヲ助長セルガ爲表土ノ流出甚シク、遂ニ昭和十年九月ノ豪雨ニ際シ崩壊ヲ惹起シタルモノデア
ル。而シテ其面積五反歩ニ及ビ尙降雨毎ニ崩壊面積ヲ擴大シツ、アル。

(4) 岡山縣眞庭郡勝山町大字見尾字家ノ上

a 地勢及面積

山麓ヨリ山腹ニ及ビ傾斜四十度古生層、面積一町歩。

b 作付年數及作物ノ種類

作付年數五年、現ニ三極ヲ栽培セル所。

c 被害狀況

昭和九年九月ノ水害當時本ヶ所約一町歩ハ遂ニ崩壊ヲ來シ、下流一町歩餘ノ耕地ヲ荒シ人家ヲ流失シタル外道路其他ニ及ボシタル損害頗ル多額デア
ル。

尙ホ之ノ年ノ水害ニ當リ山地崩壊セルモノニシテ三極栽培地ヨリ起リタルモノ頗ル多イノデア
ル。

(5) 愛媛縣宇摩郡金砂村大字小川山字サザレ(吉野川支流銅山川ノ流域)。

a 地勢及面積

北面ニシテ傾斜一般ニ急峻ナルモ中腹以上ニ稍緩斜ノ所ガアル。地質ハ綠泥片岩ニシテ土壤ハ之ガ風化セル埴質壤土、深キモ結合力軟弱。燒畑面積二十町歩。

b 作付年數及作物ノ種類

三極ヲ作付後七年ヲ經過セルモノデ、年々缺入ヲナシテ除草シツ、アリタルモノ。

c 被害狀況

昭和九年九月二十日ノ大降雨ニ依リ、本燒畑區域内ニ大小九ヶ所ノ崩壊地ヲ生ジ、附近各支流ノ三極畑ノ崩壊セルモノ多ク、之等ハ合シテ濁流トナリテ流出シタル結果、沿岸ノ農耕地ニ及ボセル被害頗ル大ナルモノデア
ル。

(6) 高知縣吾川郡明治村大字鎌井田

a 地勢及面積

仁淀川ノ上流左岸ニアル一支流ニ位シ、地勢急峻傾斜四十五度内外、地質ハ古生層、母岩ハ硅岩、輝岩、粘板岩等ヨリ成リ極メテ風化シ易ク、土質ハ之等岩石ノ風化シタル埴土ヨリ成リ地味肥沃。面積六町歩。

b 作付年數及作物ノ種類

燒畑初年ニ蕎麥ヲ作り二年目ニ三極ヲ植エタル所ニシテ既ニ五ヶ年ヲ經過セルモノ。

c 被害狀況

昭和二年八月下旬ノ大暴風雨當時、本燒畑大部ニ崩壊ヲ生ジ多量ノ土砂ヲ流出シ、該流沿岸ノ耕地約四町歩ヲ流失埋没セ
ル外人家五戸ヲ倒壊十名ノ人命ヲ奪フ慘事ヲ惹起セルモノデ、其他下流ニ及ボシタル被害ハ頗ル多大ナルモノデア
ツタ。右ノ外高知縣下ニ於テ三極栽培セル燒畑ノ崩壊ニヨリ被害ヲ及ボセル例ハ尙ホ甚ダ多イノデア
ル。即チ高知縣全般ニ渡ツテ之ヲ見レバ仁淀、四萬十、物部及吉野ノ四大河川ノ水源地方ニアル三萬町歩ノ燒畑及切替畑ハ、縣下重要物産トシテ名聲ヲ博スル土佐紙ノ原料タル三極皮ノ産地デアツテ、其價格一ヶ年約九十六萬圓ニ達シ木炭ニ次グル産物トシテ山岳地方有數ノモノデア
ル、然レドモ其栽培地タルヤ何レモ急峻ナル傾斜地ニ於テ而モ水源地方ニノミ多キガ故ニ、常ニ降雨毎ニ土砂ヲ流シテ下流ノ河床ヲ高メ、殊ニ毎年夏季颱風通過ニ伴フ豪雨時ニハ其關係區域ニ當ル地方ノ燒畑ニハ無數ノ崩壊地ヲ生ジ夥シキ土砂ヲ

流シテ一層河床ヲ高メ、以テ氾濫ノ因ヲナシ、耕宅地ノ流失埋没其他下流地方ノ損害ハ實ニ莫大ナルモノデ最近年額二百三十一萬圓ノ巨額ニ達スル現状デアアル。而シテ切替畑一團地ノ面積ハ四、五町歩ニ達スルモノ尠カラズ、又一戸ニテノ最大作付反別十町歩ニ達スルモノアルガ如ク、其方法至ツテ粗放ニシテ徒ニ大面積ノミ作付スルガ爲、勢ヒ益々森林ヲ荒廢セシムルモノガ多イノデアアル。

第四、燒畑及切替畑ノ改廢對策

既ニ記述セルガ如ク、吾國ニ於ケル燒畑及切替畑七萬八千町歩ノ大面積中共四割ハ最モ原始的ナル方法ニヨリテ僅小ナル農作物ヲ收穫スルニ止マリ、治水上ニ及ボス影響ハ殊ニ多大ナルモノデアリ、又造林地拵的ニ行フモノト雖モ六割ヲ占メ治水上ノ影響モ決シテ尠クナイ。而カモ其多クハ經濟的事業タラズ、將來之ガ改廢ヲ講ズルハ實ニ現下ノ急務ト言ハネバナラヌ。而シ山間僻陬ノ地ニ於テ食料ヲ得ンガ爲メニ行フモノ多キモノナレバ之等社會的交渉モ深ク考慮ヲ拂フ要ガアルコト勿論デアアル。今之ガ改廢對策ノ一ツトシテ施業上ノ改廢對策ニ就テノミ記述シテ置ク。

施業上ノ改廢對策トシテハ大面積ノ燒畑ヲ廢止シ、勉メテ小面積ニ留メテ面積ノ縮少ヲ圖リ、又成ルベク作付年數ヲ短縮シ且ツ前ニ記述セル德島縣木頭地方ニ行ハル、燒畑ノ如ク、燒畑跡地ニハ必ズ杉、扁柏等ノ造林ヲ行フ事デアアル。木頭地方ハ古クハ專ラ燒畑ノミニヨリ生活シ來レルモノデアツタガ、現在ニ於テハ本邦有數ノ林業地トシテ知ラレ、山村民ノ生活上ニモ何等支障ナク、一面食料ヲ得ルト共ニ他優良ノ木材ヲ產出シ、村民其堵ニ安ンジテ居ルノデアアル。實ニ粗放極リナカリシ燒畑作業ノ能ク改善セラレタル唯一ノモノト云フ事ガ出來ル。

今日燒畑跡地ハ山地トシテ比較的肥沃地ナレバ、最モヨク杉、扁柏等ノ植栽ニ適スルニヨリ、燒畑跡地ハ之ヲ放置スル事ナ

ク、農作廢止後又ハ其廢止一兩年前ヨリ杉若クハ扁柏ヲ、或ハ寒キ地方ニ於テハ落葉松ノ大苗一反歩五十乃至百本ノ割合ニ植栽シ、其間作トシテ該造林面積ノ五割内外ニ對シ、一、二年間農作ヲ行フノデアアル。

斯クノ如クセバ小作者モ農作物ノ收穫ヲアゲ、一面地主ハ相當大材ヲ得テ兩者得ル所大ナルモノガアル。又製紙原料トシテ三極栽培ヲ廢止スル事能ハザル地方ニ於テハ、三極植付後第一回ノ收穫ヲアグル三年目ニ於テ一反歩百本乃至百五十本ノ割合ヲ以テ杉、扁柏、又ハ櫟ヲ植付第一回三極收穫後ハ之等ノ純林又ハ混淆林トスルコト山梨縣萬澤村地方ニ行ハル、如キ方法ニヨルモ一法デアアル。現ニ德島縣三好郡三繩村地方ニ行ハル櫟林ハ、三極栽培セル燒畑ニ植付ケ其成績良好ナルヲ見ルノデアアル。

昭和十一年三月十六日印刷
昭和十一年三月十九日發行

農林省山林局

東京市京橋區湊町二丁目十六番地
印刷所 第一印刷所
東京市京橋區湊町二丁目十六番地
印刷所 篠倉政一

電話京橋(前)三〇六〇・六〇三五

14.24
763

終